

FMV
BIBLO LOOX
ル ー ク ス

FMV- BIBLO LOOX P70R

B6FH-8641-01



ソフトウェアガイド

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 機能

本パソコンでお使いになれる機能について説明しています。

第2章 セキュリティ

本パソコンで利用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

第3章 ソフトウェア

ソフトウェアについて説明しています。

第4章 トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

目次

本書の構成	1
本書をお読みになる前に	4
商標および著作権について	6

第1章 機能

1 ディスプレイ関連	8
液晶ディスプレイの明るさ設定	8
全画面表示と通常表示の切り替え	10
ローテーション機能	12
解像度と色数について	14
表示装置の切り替え	16
マルチモニタ機能	19
外部ディスプレイの走査周波数について	22
2 音量の設定	23
キーボードで調節する	23
画面上の音量つまみで設定する	23
再生時／録音時の音量設定について	24
3 通信	26
LANについて	26
ワイヤレス LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) について	27
内蔵モデムについて	28
4 ドライブ関連	30
ドライブ構成	30
5 省電力	31
スタンバイと休止状態	31
注意事項	31
省電力の設定	33
スタンバイまたは休止状態にする	34
スタンバイまたは休止状態からのレジューム	36

第2章 セキュリティ

1 セキュリティについて	40
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	41
ウイルス対策ソフト	41
ワイヤレス LAN 使用時の通信データの暗号化	43
Windows やソフトウェアのアップデート	43
3 不正使用からのセキュリティ	45
Windows のパスワード	45
管理者権限とユーザーアカウント	45
アクセス権と暗号化	45
BIOS のパスワード	46
指紋センサー	46
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能	46
4 パソコンの盗難防止	47
5 パソコン本体廃棄時のセキュリティ	48
パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意	48
ハードディスクのデータ消去サービスについて	49

第3章 ソフトウェア

1 ソフトウェア一覧	52
各ソフトウェアの紹介	53
アンインストール方法	58
インストール方法	58

第4章 トラブルシューティング



1 トラブルに備えて	60
テレビ／ラジオなどの受信障害防止について	60
Windows のセットアップ後の操作	60
修正プログラムの適用について	61
データのバックアップ	61
コンピュータウイルス対策	61
自動車内での使用について	62
ドキュメントの確認	62
2 トラブル発生時の基本操作	63
本パソコンや周辺機器の電源を確認する	63
以前の状態に戻す	63
Safe モードで起動する	64
バックアップを行う	64
メッセージなどが表示されたらメモしておく	65
診断／修正プログラムを使用する	65
リカバリ	66
3 起動・終了時のトラブル	67
4 OS・アプリケーション関連のトラブル	69
5 ハードウェア関連のトラブル	71
ハードウェア関連のトラブル一覧	71
BIOS	72
メモリ	72
内蔵 LAN	73
内蔵モデム	74
ハードディスク	74
CD／DVD	75
バッテリー	76
ディスプレイ	77
サウンド	78
キーボード	78
ペン／マウス／ポインティングデバイス	78
USB	79
プリンタ	80
その他	80
6 それでも解決できないときは	81
お問い合わせ先	81

本書をお読みになる前に




本書の表記

■警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。




 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:
↑ ↑

- ・ ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- ・ CD/DVD ドライブのドライブ名を、[CD/DVD ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

例：[CD/DVD ドライブ]:¥setup.exe

■ 操作方法の記載

本文中では、操作方法を「クリック」と表記しています。

ペンで操作する場合は、「クリック」を「タップ」と読み替えてください。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中のBIOSセットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「－」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「：」（コロン）の後に記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「言語（Language）」の項目を「日本語（JP）」に設定します。

↓

「メイン」－「言語（Language）」：日本語（JP）

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いの機種、または OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記		
FMV-BIBLO LOOX P70R	本パソコン／パソコン本体		
Microsoft® Windows® XP Tablet PC Edition 2005	Windows XP Tablet PC Edition 2005	Windows XP	Windows
Microsoft® Windows® XP 日本語版 Service Pack	SP		
Norton AntiVirus™ 2006	Norton AntiVirus		
Roxio DigitalMedia SE	Roxio DigitalMedia		
InterVideo WinDVD™ 5	WinDVD		
Adobe® Reader™ 7.0	Adobe Reader		

商標および著作権について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel、および Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

ATI、FireGL は ATI Technologies INC. の登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2006
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

1

第 1 章

機能

本パソコンでお使いになれる機能について説明しています。

1 ディスプレイ関連	8
2 音量の設定	23
3 通信	26
4 ドライブ関連	30
5 省電力	31

1 ディスプレイ関連

液晶ディスプレイの明るさ設定

液晶ディスプレイの明るさは、8段階に調節できます。暗くすると、消費電力が小さくなります。

重要

- ・ 外部ディスプレイの明るさについては、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

明るさを設定する

本パソコンは、ACアダプタを使っているときと、バッテリーで使っているときの液晶ディスプレイの明るさをそれぞれ設定できます。

ご購入時には、ACアダプタで使っているときに明るくなり、バッテリーで使っているときには暗くなるように設定されています。液晶ディスプレイの明るさは、キーボードを使って変更できます。また、OS、ドライバや「IndicatorUtility」(●▶ P.54) によって、それぞれの電源の状態で保存されます。お使いの環境に合わせて、明るさを変更してください。

明るさを変更する

キーボードを使用して、液晶ディスプレイの明るさを調節することができます。

【Fn】 + 【F6】 キーを押すと暗く、【Fn】 + 【F7】 キーを押すと明るくなります。

調節中は、画面下部に明るさを示すインジケータが表示されます。

POINT

- ・ 次のような場合は、キーボードで明るさを変えられないことがあります。しばらくしてから変更してください。
 - ・ Windows を再起動した直後
 - ・ スタンバイまたは休止状態からレジュームした直後
 - ・ AC アダプタを取り付け、取り外した直後
- ・ 「Fujitsu Button Utilities」(●▶ P.55) をアンインストールすると、明るさを示すインジケータが表示されません。

インテル® ディスプレイ省電テクノロジー

本パソコンには、インテル® ディスプレイ省電テクノロジーが搭載されています。インテル® ディスプレイ省電テクノロジーを有効にすると、バッテリー運用時、液晶ディスプレイの消費電力を節約することができます。

しかし、画面の明暗の変化に合わせて、液晶ディスプレイの明るさやコントラストを変更させるため、画面がちらついて見えたり、画質が変化しているように見えたりする場合があります。

このような場合は、次の手順で設定を無効にしたり、変更したりすることで、これらの現象を抑えることができます。

POINT

- ・ インテル® ディスプレイ省電テクノロジーは、本パソコンをバッテリーで使うときに液晶ディスプレイにのみ働く機能です。
AC アダプタで使うときや、外部ディスプレイに表示しているときは働きません。このようなときも、液晶ディスプレイの画面がちらついて見えたりする場合には、本機能以外の原因が考えられます。
- ・ インテル® ディスプレイ省電テクノロジーが働いている状態で、液晶ディスプレイの明るさを変更しても、明るさの変化が少なくなる場合があります。

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 4 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 5 「シングルディスプレイ」の「ノートブック」をクリックして、チェックを付けます。
- 6 左の一覧から「ディスプレイ設定」をクリックします。
- 7 「電源設定」をクリックします。
「電源設定」ウィンドウが表示されます。
- 8 「インテル (R) ディスプレイ省電テクノロジー」の設定を変更します。
 - 有効にする場合
「インテル (R) ディスプレイ省電テクノロジー」にチェックを付け、その下のつまみを左右にドラッグして、消費電力を調整します。
「画質最高」側にすると画面表示のクオリティが優先され、「バッテリー寿命最長」側にすると消費電力の節約が優先されます
 - 無効にする場合
「インテル (R) ディスプレイ省電テクノロジー」のチェックを外します。
- 9 設定が完了したら、「適用」をクリックします。
- 10 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

全画面表示と通常表示の切り替え

液晶ディスプレイを標準または規定の解像度よりも低い解像度に設定したときに、画面がディスプレイ中央に小さく表示または全画面表示されるようにするには、次の手順で設定を変更してください。

注意事項

- ・ 解像度を 800 × 600 に設定した場合、Windows の画面の通常表示と全画面表示を切り替えることができます。
- ・ コマンドプロンプトの全画面表示は、プライマリのみに表示されます。

「画面のプロパティ」ウィンドウを使用する場合

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 4 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 5 次の操作を行います。
 - 液晶ディスプレイ表示の場合
「シングルディスプレイ」の「ノートブック」をクリックして、チェックを付けます。
 - 外部ディスプレイ表示の場合
「シングルディスプレイ」の「PC モニタ」をクリックして、チェックを付けます。
 - 同時表示の場合
「マルチディスプレイ」の「Intel(R) Dual Display Clone」をクリックして、チェックを付けます。
 - マルチモニタ表示の場合
「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をクリックして、チェックを付けます。

POINT

- ・ 同時表示、またはマルチモニタ表示の場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。
 - ・ プライマリ：ノートブック
 - ・ セカンダリ：PC モニタ

- 6 左の一覧から「ディスプレイ設定」をクリックします。

液晶ディスプレイ表示、外部ディスプレイ表示の場合は、手順 8 に進んでください。

7 上の一覧から全画面表示と通常表示を切り替えるディスプレイをクリックします。

8 「ディスプレイの拡張」で、お使いになる設定を選択します。

- 全画面表示（枠なし）
デスクトップが画面全体に拡張されます。
- デスクトップの中央
デスクトップが通常表示になります。
- アスペクト比を保持
デスクトップがアスペクト比（縦横比）を維持したまま最大拡張されます。

POINT

- ・「デスクトップの中央」は、液晶ディスプレイの場合のみ選択できます。

9 「適用」をクリックします。

POINT

- ・「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

10 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

POINT

- ・ デスクトップの解像度をご購入時の解像度よりも小さい値に設定した場合、2種類の画面拡張設定が選択できます。
 - ・ 画面全体に拡張
画面全体が縦長に表示されます。
 - ・ アスペクト比を維持したまま拡張
縦長にはなりませんが、画面の上下に黒いスペースができます。

キーボードを使用する場合

液晶ディスプレイ表示または外部ディスプレイ表示のときは、キーボードの【Fn】キーを押しながら【F5】キーを押しても、全画面表示と通常表示を切り替えることができます。テレビ表示や同時表示、マルチモニタ表示のときは、キーボードで全画面表示と通常表示を切り替えることはできません。

なお、【Fn】＋【F5】キーを使って切り替えたときは、パソコンの電源を切ると画面の設定は保存されません。設定を保存するときは、「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えてください（●▶ P.10）。

ローテーション機能

「ローテーション機能」を使うとデスクトップの画面の向きを 90 度単位で変更できます。

注意事項

- ・ローテーション機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェア（スクリーンセーバーなどを含む）を終了してください。
- ・ローテーション機能を使用中に、ハードウェア アクセラレータの設定を変更しないでください。
- ・ローテーション機能を使用中は、ソフトウェア（スクリーンセーバーなどを含む）によっては正常に動作しなかったり、表示速度が遅くなる場合があります。
- ・Windows の起動中、終了中はローテーション機能が無効になります。
- ・画面のプロパティにおいて、解像度をパソコンのパネル解像度よりも低い解像度に設定してローテーション機能をお使いになると、解像度と色数の設定は正しく表示されません。
- ・ローテーション機能をお使いの場合、USB マウスの動作は画面の回転に追従しません。
- ・ローテーション機能を使用中は、画面の解像度および色数を変更しないでください。解像度および色数を変更する場合は、画面を元の状態（標準（0 度））に戻してから変更してください。
- ・ローテーション機能を使用中にマウスポインタが消えてしまう場合があります。その場合、「コントロールパネル」ウィンドウの「マウス」アイコンをダブルクリックして、「ポインタ」タブで「配色」を「(なし)」に設定してください。また、「動作」タブで「ボタンの軌跡」の「表示する」のチェックも外してください。
- ・ローテーション機能を使用中に省電力機能を使用すると、壁紙が正しく表示されない場合があります。その場合は、「最新の情報に更新」を行いデスクトップ画面を再表示してください。
- ・ローテーション機能を使用中に Direct3D や OpenGL を使用したスクリーンセーバーをお使いになると、省電力機能が正常に動作しません。

「画面のプロパティ」で画面の向きを変更する

- 1** デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3** 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for mobile」が表示されます。
- 4** 左の一覧から「ディスプレイ設定」をクリックします。

5 「回転」の「回転を有効にする」がチェックされていることを確認します。

6 表示方法にあわせて、チェックを付けます。

- ・ 0 : 0 度
- ・ 90 : 左 90 度回転
- ・ 180 : 180 度反転
- ・ 270 : 右 90 度回転

7 「適用」をクリックします。

POINT

- ・ 「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックしてください。
- ・ 画面の角度を「90」または「270」に変更できない場合は、ディスプレイドライバのウィンドウから「モニタ」タブをクリックし、「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

8 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

ホットキーを使用して画面の向きを変更する

標準 (0 度) : 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【↑】 キー

左 90 度回転 : 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【←】 キー

180 度反転 : 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【↓】 キー

右 90 度回転 : 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【→】 キー

POINT

- ・ 上記は出荷時の設定です。ホットキーの割り当ては、「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」で、変更することができます。

「ローテーション」ボタンで画面の向きを変更する

「ローテーション」ボタンを設定すると、デスクトップの画面の向きを簡単に変更することができます。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「プリンタとその他のハードウェア」の順にクリックします。

プリンタとその他のハードウェア」ウィンドウが表示されます。

2 「タブレットとペンの設定」→「画面」タブの順にクリックし、「画面の向き」の「順序」－「変更」をクリックします。

「向きの順序の設定」ウィンドウが表示されます。

3 1～4 を設定し、「OK」をクリックします。

POINT

・ご購入時の設定は次のとおりです。「ローテーション」ボタンを1回押すごとに、縦画面表示と横画面表示を繰り返します。

1. 「横（プライマリ）」（横画面で0度）
2. 「縦（プライマリ）」（縦画面で270度回転した状態）
3. 「（なし）」、または「何もしない」
4. 「（なし）」、または「何もしない」

設定例）1～4を次のように設定すると、「ローテーション」ボタンを1回押すごとに、90度ずつ回転して表示されます。

1. 「横（プライマリ）」（横画面で0度）
2. 「縦（プライマリ）」（縦画面で270度回転した状態）
3. 「横（セカンダリ）」（横画面で180度回転した状態）
4. 「縦（セカンダリ）」（縦画面で90度回転した状態）

4 「適用」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

コントロールパネルで画面の向きを変更する

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
- 3 「タブレットとペンの設定」をクリックします。
- 4 「画面」タブをクリックします。
- 5 「画面の向き」－「向き」のプルダウンメニューからプルダウンメニューから向きを選び、「適用」をクリックします。
- 6 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

解像度と色数について

本パソコンでは、Windows の「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで次の解像度、色数を選択／変更できます。色数は「中」が6万5千色、「最高」が1677万色です。

POINT

- ・ 外部ディスプレイの接続方法については、『ハードウェアガイド』（PDF）の「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」をご覧ください。
- ・ 「画面のプロパティ」ウィンドウで解像度、色数を選択／変更しても、再起動時や、スタンバイまたは休止状態からの復帰時などには、自動的にプロファイルで設定されている解像度、色数に変更されます。「画面のプロパティ」ウィンドウの変更をプロファイルに保存するには、次の手順で富士通タブレットコントロールの設定を変更します。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。

3. 「富士通タブレットコントロール」をクリックします。
「富士通タブレットコントロール」ウィンドウが表示されます。
4. 必要に応じて「富士通タブレットコントロール」ウィンドウの設定を変更します。
設定方法については、「富士通タブレットコントロール」のヘルプをご覧ください。

■画面の向きが横の場合

解像度 (ピクセル)	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ注4	外部ディスプレイ注4
800 × 600	中 (16 ビット) 最高 (32 ビット) 注1	中 (16 ビット) / 最高 (32 ビット) 注1	
1024 × 600		—	
1024 × 768 注2 注3		中 (16 ビット) 最高 (32 ビット) 注1	
1280 × 768 注2 注3			
1280 × 1024 注2 注3			
1400 × 1050 注2 注3			
1600 × 1200 注2 注3			

注1：液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注2：この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

注3：液晶ディスプレイは仮想デスクトップになります。仮想デスクトップでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

注4：プラグアンドプレイ対応の外部ディスプレイを使用の場合、最大解像度は外部ディスプレイからの情報により決定されます。

■画面の向きが縦の場合

解像度 (ピクセル)	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ注4	外部ディスプレイ注4
600 × 1024	中 (16 ビット) 最高 (32 ビット) 注1	—	
768 × 1024 注2 注3		中 (16 ビット) 最高 (32 ビット) 注1	
768 × 1280 注2 注3			
1024 × 1280 注2 注3			
1050 × 1400 注2 注3			
1200 × 1600 注2 注3			

注1：液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注2：この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

注3：液晶ディスプレイは仮想デスクトップになります。仮想デスクトップでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

注4：プラグアンドプレイ対応の外部ディスプレイを使用の場合、最大解像度は外部ディスプレイからの情報により決定されます。

注意事項

- ・ 通常は 640 × 480 の解像度は選択できませんが、一部のゲームやソフトウェアでは使用されることもあります。
- ・ 液晶ディスプレイの解像度以上に解像度を設定する場合、あらかじめ次のように設定してください。なお、画面は仮想デスクトップに表示されます。
 1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 2. 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックします。
 3. 「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックが外れていることを確認します。

POINT

・「このモニタでは表示できないモードを隠す」の項目が選択できない場合は、この設定は必要ありません。

- ・ 解像度を 800 × 600 に設定した場合、Windows の画面の通常表示と全画面表示を切り替えることができます。
- ・ 外部ディスプレイとして CRT ディスプレイを接続した場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウでリフレッシュレートを 85Hz 以上に設定できるように見えますが、実際の CRT ディスプレイの走査周波数は各機種の「外部ディスプレイの走査周波数について」（●▶ P.22）の表以外の周波数を使用することはできません。
- ・ 解像度を切り替えるときに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- ・ 画面の解像度や色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず Windows を再起動してください。

表示装置の切り替え

表示装置の切り替え方法は次のとおりです。なお、表示装置をあらかじめ取り付けしてから切り替えてください。表示装置の取り付け方は、『ハードウェアガイド』（PDF）の「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」をご覧ください。

注意事項

- ・ 表示装置の切り替えの設定は次のようになります。
 - Windows が起動するまでの間は、BIOS セットアップの設定が有効です。
 - Windows 起動中は「画面のプロパティ」ウィンドウの設定が有効（Windows を再起動後も有効）です。
 - Windows が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows で使用していた状態に戻ります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。
 - 外部ディスプレイを接続して、初めて電源を入れたときは、同時表示の状態に切り替わる場合があります。
- ・ 解像度の切り替え時などに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- ・ 外部ディスプレイまたは液晶プロジェクタによっては、液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイの同時表示時に、画面が正しく表示されないことがあります。

- ・ 外部ディスプレイで液晶ディスプレイ以上の高解像度を利用するには、それらの解像度を表示可能な外部ディスプレイが必要です。
- ・ 液晶プロジェクタを本パソコンの液晶ディスプレイと同時表示で使用する場合、VESA で標準化された DDC の規格を満たしていて、かつ本パソコンの液晶ディスプレイと同じ解像度を表示可能な液晶プロジェクタが必要です。本規格を正しく満たしているかどうかに関しては、それぞれの液晶プロジェクタのメーカーにご確認ください。これはプラグアンドプレイを実現するために外部ディスプレイの情報をパソコン本体に伝送できるようにするための規格であり、これを満たしていない液晶プロジェクタには表示することはできません。
- ・ BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。外部ディスプレイにも BIOS セットアップの画面を表示させる場合には、BIOS セットアップの「詳細」－「ディスプレイ設定」を「外部ディスプレイ」に設定してください（●▶『ハードウェアガイド』の「BIOS」－「メニュー詳細」）。
- ・ 外部ディスプレイを接続した状態で、コマンドプロンプトをウィンドウ表示から全画面表示に切り替ええると、表示デバイスが切り替わることがあります。
また、コマンドプロンプトを終了したときやウィンドウ表示に切り替えたときに、表示デバイスが切り替わることがあります。この現象はドライバおよび OS での制限（仕様）です。あらかじめご了承ください。
- ・ 液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイの同時表示を選択した場合、外部ディスプレイ画面は液晶ディスプレイ画面と同一の解像度になります。
- ・ ビデオ CD や DVD-VIDEO などの動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えないでください。いったん動画を再生しているソフトウェアを終了してから、表示するディスプレイを切り替えてください。
- ・ 画面の解像度や発色数、リフレッシュレートを変更する場合は、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてから設定してください。また、変更後は必ず Windows を再起動してください。
- ・ コマンドプロンプトを全画面表示にしてお使いの場合は、【Fn】 + 【F10】キーでの表示装置の切り替えができません。この場合は、一度ウィンドウ表示にしてから表示装置を切り替えてください。
- ・ 動画の再生中は、表示装置を変更することができません。一度、動画を再生しているソフトウェアを終了させてから、表示装置を変更してください。

「画面のプロパティ」ウィンドウを使用する場合

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 4 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。

5 次の操作を行います。

■ 1 台のディスプレイに表示する場合

「シングルディスプレイ」の一覧から、表示するディスプレイをクリックして、チェックを付けます。

■ 同時表示の場合

「マルチディスプレイ」の「Intel(R) Dual Display Clone」をクリックして、チェックを付けます。

POINT

同時表示の場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。

- ・ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの場合
 - ・ プライマリ：ノートブック
 - ・ セカンダリ：PC モニタ
- ・ 液晶ディスプレイとテレビの場合
 - ・ プライマリ：ノートブック
 - ・ セカンダリ：テレビ
- ・ 外部ディスプレイとテレビの場合（同時表示のみ）
 - ・ プライマリ：PC モニタ
 - ・ セカンダリ：テレビ

「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

6 「適用」をクリックします。

ディスプレイが切り替わります。

7 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

POINT

- ・ 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、外部ディスプレイ表示に切り替えたときに何も表示されない、または正常に表示されないことがあります。その場合は次の操作を行うようにしてください。
- ・ 何も表示されない場合
何も操作しないでお待ちください。15 秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、【Fn】キーを押しながら【F10】キーを押して、表示先を切り替えてください。
- ・ 正常に表示されない場合
外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、次の方法で設定を変更してください。
 1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
 3. 「モニタ」タブをクリックします。
 4. 「モニタの設定」のリフレッシュレートを外部ディスプレイでサポートする走査周波数に設定します。
 5. 「OK」をクリックします。
- ・ 別の外部ディスプレイに変更する場合は、変更前と変更後の両方の外部ディスプレイがサポートする解像度、リフレッシュレートにあらかじめ変更し、パソコンの電源を切った後、別の外部ディスプレイを接続してください。外部ディスプレイのサポートする解像度、リフレッシュレートが異なる場合は、外部ディスプレイを変更したときに、画面が表示できなくなる場合があります。

キーボードを使用する場合

表示装置を切り替えるには、【Fn】+【F10】キーを押します。表示装置は次の順に切り替わります。このとき【F10】キーを、間隔を空けて押してください。

液晶ディスプレイ → 外部ディスプレイ → 液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ（同時表示） → 液晶ディスプレイ…

POINT

- ・ キーを押しても表示装置が切り替わらない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウで切り替えてください。
- ・ コマンドプロンプトを全画面表示にしている場合は、【Fn】+【F10】キーを使用して表示デバイスを切り換えることができません。一度、ウィンドウ表示に切り換えてから表示デバイスを切り替えてください。

マルチモニタ機能

本パソコンには、2 台のディスプレイで 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで、1 つのデスクトップを表示できます。ここではプライマリアダプタ（メイン画面）として液晶ディスプレイを、セカンダリアダプタ（サブ画面）として外部ディスプレイを使用する場合の手順を説明します。

重要

- ・ マルチモニタ機能をお使いになる前に、必ず外部ディスプレイを接続してください。
- ・ マルチモニタ機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
- ・ マルチモニタ機能をお使いになるときは液晶ディスプレイを「プライマリ」、外部ディスプレイを「セカンダリ」に設定してください。
- ・ マルチモニタ機能の注意
 - ・ 2 台のディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
 - ・ セカンダリアダプタのみに表示されているソフトウェアを起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよび Windows の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
 - ・ 次の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
 - ・ 液晶ディスプレイの全画面表示
 - ・ コマンドプロンプトのフルスクリーン表示
 - ・ 一部のスクリーンセーバー
 - ・ 動画再生画面のフルスクリーン表示
 - ・ アクセラレータ機能を使用しての動画再生画面
- ・ 色数についての注意
 - ・ プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の色数を設定しないでください。
 - ・ 「中」または「最高」に設定してください。

POINT

- ・ マルチモニタ使用時は、キーボードによるディスプレイの切り替えは無効となります。
- ・ マルチモニタ使用時に外部ディスプレイでペンはお使いになれません。あらかじめマウスを接続して操作してください。

マルチモニタの設定

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 3 「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」タブをクリックし、「グラフィックプロパティ」をクリックします。
「Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile」が表示されます。
- 4 左の一覧から「ディスプレイデバイス」をクリックします。
- 5 「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」をクリックして、チェックを付けます。
- 6 「プライマリデバイス」が「ノートブック」、「セカンダリデバイス」が「PC モニタ」であることを確認します。

POINT

- ・「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

- 7 「適用」をクリックします。

POINT

- ・「デスクトップの変更を確認」ウィンドウが表示されたら、「OK」をクリックします。

- 8 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

アダプタの表示位置を変更する

ここでは使用する2つのアダプタの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 モニタアイコンを、表示する位置にドラッグします。
- 4 「OK」をクリックします。

表示できる色数と解像度

次の表の解像度以外を選択した場合、画面が正しく表示されないことがあります。

色数	画面の向き	プライマリの解像度	セカンダリの解像度 ^{注4}					
			800 × 600	1024 × 768	1280 × 768	1280 × 1024	1400 × 1050	1600 × 1200
中 (16 ビット) 最高 (32 ビット) ^{注1}	横	800 × 600	○	○	○	○	○	○
		1024 × 600	○	○	○	○	○	○
		1024 × 768 ^{注2 注3}	○	○	○	○	○	○
		1280 × 768 ^{注2 注3}	○	○	○	○	○	○
		1280 × 1024 ^{注2 注3}	○	○	○	○	○	○
		1400 × 1050 ^{注2 注3}	○	○	○	○	○	○
		1600 × 1200 ^{注2 注3}	○	○	○	○	○	○
	縦	600 × 1024	○	○	○	○	○	○
		768 × 1024 ^{注2 注3}	○	○	○	○	○	○
		768 × 1280 ^{注2 注3}	○	○	○	○	○	○
		1024 × 1280 ^{注2 注3}	○	○	○	○	○	○
		1050 × 1400 ^{注2 注3}	○	○	○	○	○	○
		1200 × 1600 ^{注2 注3}	○	○	○	○	○	○

注1：液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用しています。

注2：この解像度が表示されない場合は、「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細設定」をクリックし、表示されたウィンドウの「モニタ」タブで「このモニタでは表示できないモードを隠す」のチェックを外してください。

注3：液晶ディスプレイは仮想デスクトップになります。液晶ディスプレイにはディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

注4：プラグアンドプレイ対応の外部ディスプレイを使用の場合、最大解像度は外部ディスプレイからの情報により決定されます。

注意事項

■ 共通の注意事項

- ・ プラグアンドプレイ対応の表示装置を使用の場合、最大解像度は液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- ・ プラグアンドプレイ非対応の表示装置を使用の場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は外部ディスプレイの最大解像度になります。
- ・ マルチモニタ機能使用時には、DVD-VIDEO を再生しないでください。
- ・ マルチモニタ機能使用時に Windows を再起動した場合、使用している外部ディスプレイによっては、画面が正常に表示されないことがあります。このような場合には、リフレッシュレートを 85Hz 以下に設定してください。
- ・ マルチモニタ機能使用時には、【Fn】+【F10】キーを使用して、表示装置を切り替えることはできません。

外部ディスプレイの走査周波数について

ディスプレイドライバにより次の走査周波数を選択することができます。
選択できる走査周波数は、外部ディスプレイ表示のみの場合も同時表示の場合も同じです。
ただし、外部ディスプレイによっては、選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に切り替えて、選択し直してください。

解像度	水平走査周波数 (kHz)	垂直走査周波数 (Hz)
800 × 600	37.9	60
	48.1	72
	46.9	75
	53.7	85
1024 × 768	48.4	60
	56.5	70
	60	75
	68.7	85
1280 × 1024	64	60
	80	75
	91.1	85
1400 × 1050 注	65.3	60
	82.3	75
	85	85
1600 × 1200	75	60
	81.3	65
	87.5	70
	93.8	75
	106.3	85

POINT

- お使いになる外部ディスプレイによっては、外部ディスプレイ表示に切り替えた場合、画面が正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、「リフレッシュレート」の設定値を変更してから外部ディスプレイ表示に切り替えてください。
「リフレッシュレート」とは、1 秒間に画面を書き換える回数を周波数（単位は Hz）で表したものです。垂直同期周波数ともいいます。リフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが感じられなくなります（お使いの外部ディスプレイによって値の上限は決まっています）。
- リフレッシュレートの変更は、次のように設定してください。
 - デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 - 「設定」タブをクリックし、ディスプレイイラストからリフレッシュレートを変更するモニタアイコンを選択します。
（プライマリに設定したモニタのリフレッシュレートを変更したい場合は「1」を、セカンダリに設定したモニタのリフレッシュレートを変更したい場合は「2」を選択します。）
 - 「詳細設定」をクリックします。
お使いのディスプレイドライバのウィンドウが表示されます。
 - 「モニタ」タブをクリックします。
 - 「画面のリフレッシュレート」から、設定したいリフレッシュレートを選択します。
 - 「適用」をクリックします。
 - 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

2 音量の設定

1

スピーカーやヘッドホンの音量は、キーボード、または画面の音量つまみで調節します。

また、音声入出力時のバランスや音量の設定は、音量を設定するウィンドウで行います。

重要

- ・スピーカーが故障する原因となる場合がありますので、音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定や調整をしてください。

キーボードで調節する

キーボードで音量を調節するには、【Fn】+【F8】キーまたは【F9】キーを押します。

【Fn】+【F8】キーを押すと音量が小さく、【Fn】+【F9】キーを押すと音量が大きくなります。

音量の調節中、画面下部に音量を示すインジケータが表示されます。

音量を消したい場合は、【Fn】+【F3】キーを押します。

「Mute」と表示され、画面右下の通知領域のアイコンが変わります。

もう一度【Fn】+【F3】キーを押すと、画面下部に現在の音量を示すインジケータが表示され、音が出るようになります。

画面上の音量つまみで設定する

1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをクリックします。

音量を調節する画面が表示されます。

POINT

- ・通知領域に「音量」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 2. 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。
 3. 「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」が表示されます。
 4. 「音量」タブをクリックします。
 5. 「デバイスの音量」の「タスクバーに音量アイコンを配置する」のチェックを付けます。
 6. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。

「ミュート」をチェックすると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。

POINT

- ・音量つまみを表示しているとき、キーボードで音量を調節すると、音量つまみも動きます。

3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量を調節する画面が消えます。

消えなかった場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

再生時／録音時の音量設定について

再生時の音量設定方法

1 通知領域の「音量」アイコンをダブルクリックします。

音量を設定するウィンドウが表示されます。

2 バランスや音量などを調節します。

録音時の音量設定方法

1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。

音量を設定するウィンドウが表示されます。

2 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。

「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「音量の調整」の「録音」をクリックし、「OK」をクリックします。

4 バランスや音量などを調節します。

POINT

- ・ バランスや音量を設定しても再生時／録音時の音量が小さい、または大きい場合は、音量を設定するウィンドウでマイク音量を設定してください。
 1. 「オプション」メニュー→「トーン調整」の順にクリックします。
 2. 「Audio Input」または「マイク」の「トーン」をクリックします。
 3. 「その他の調整」で「マイクブースト」のチェックを確認してください。
 - 音量を大きくしたい場合はチェックを付けます。
 - 音量を小さくしたい場合はチェックを外します。

ご購入時の音量設定

ご購入時の音量設定は、次のようになっています。なお、ミュートが「○」の項目は、ご購入時には音が聞こえないように設定されています。

POINT

- ・各項目で表示される名称や順番は OS により異なる場合があります。
- ・表示されていない項目（注 1 が付いている項目）を表示させる場合は、次のように設定します。
 1. 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
 2. 「音量の調整」で、「再生」または「録音」をチェックします。
 3. 「表示するコントロール」で、項目をクリックしてチェックします。
項目が表示されるようになります。

■再生時の音量設定

項目	ミュート	設定する音量
マスタ音量	×	パソコン全体の音量
WAVE	×	Wave 音源の音量
SW シンセサイザ	×	本パソコン内蔵のソフトウェア MIDI の音量
Line Out 注 1	○	使用できません
補助入力 注 1	○	使用できません
CD プレーヤー	×	音楽 CD の音量
ライン入力 注 1	○	使用できません
マイク	○	マイク端子に接続したマイクの音量
電話線 注 1	○	使用できません
PC Beep	×	BEEP 音の音量

■録音時の音量設定

項目	選択	設定する音量
Mono Mix 注 1	×	使用できません
Stereo Mix 注 1	×	再生音全体の録音音量
補助入力 注 1	×	使用できません
CD プレーヤー	×	使用できません
ライン入力	×	使用できません
マイク	○	マイク端子に接続したマイクの録音音量
電話線 注 1	×	使用できません

注 1：ご購入時には表示されていません。

3 通信

通信機能をお使いになる場合は、ウイルスや不正アクセスからパソコンを守るため、セキュリティ対策を実行してください（●▶ P.39）。

LAN について

LAN の設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

LAN を接続する

本パソコンには、下記に対応した LAN が内蔵されています。

- ・ 10BASE-T（IEEE 802.3 準拠）
- ・ 100BASE-TX（IEEE 802.3u 準拠）

本パソコンには、通信環境を簡単に切り替えられるソフトウェア「Plugfree NETWORK」（●▶ P.55）が添付されています。あわせてご利用ください。

警告



- ・ 雷が鳴り出したら、パソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。また、雷が鳴り出しそうなときは、AC アダプタやケーブル類を取り外し、雷が止むまで取り付けないでください。
感電・火災の原因となります。またパソコンが故障するおそれがあります。

注意



- ・ LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。



- ・ LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違えると故障の原因となることがあります。

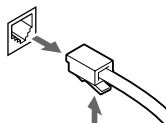
- 1** パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します（●▶『取扱説明書』）。
- 2** パソコン本体のLANコネクタ（●▶『ハードウェアガイド』（PDF）の「各部名称」－「各部の名称と働き」）とネットワークを、LANケーブルで接続します。

重要

- ・ ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします（●▶ P.33）。
省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。また、お使いになるソフトウェアによっては、不具合が発生する場合があります。
- ・ ネットワークに接続する場合は、AC アダプタを接続した上でのご使用をお勧めします。

POINT

- ・ LAN コネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。



コネクタの向きは機種により異なります。

ワイヤレス LAN (IEEE 802.11a、IEEE 802.11g 準拠) について

ワイヤレスLANを使うと、LANケーブルを使わずにネットワークに接続することができます。本パソコンに内蔵されているワイヤレスLANは、IEEE 802.11a (J52/W52/W53)、IEEE 802.11bおよびIEEE 802.11gに準拠しており、IEEE 802.11a (J52/W52/W53)、IEEE 802.11bおよびIEEE 802.11gに準拠したワイヤレス機器と接続することができます。

ワイヤレスLANについては、『ワイヤレスLANをお使いになる方へ』(PDF) をご覧ください。また、本パソコンには、通信環境を簡単に切り替えられるソフトウェア「Plugfree NETWORK」(●▶ P.55) が添付されています。あわせてご利用ください。

通信を行うための注意

本パソコンのワイヤレス LAN を使って通信するときの注意事項について説明します。

- ・ 本パソコンに内蔵されている IEEE 802.11a 準拠 (J52/W52/W53) のワイヤレス LAN は、電波法の定めにより屋外では使用できません。本パソコンを屋外でご使用になる場合は、5GHz 帯の電波を停止してください。
- ・ 最大で 54Mbps ワイヤレス LAN に対応しています。
表示の数値は、ワイヤレス LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
- ・ パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a 準拠 (J52/W52/W53) (5GHz 帯) では見通し半径 15m 以内、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠 (2.4GHz 帯) では見通し半径 25m 以内 (ワイヤレス通信の推奨値) となります。ただし、ワイヤレス LAN の特性上、ご利用になる建物の構造や材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、または電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もあります。

- ・本パソコンの使用時、特にワイヤレス LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください（●▶『ハードウェアガイド』（PDF）の「各部名称」－「各部の名称と働き」）。また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下することがあります。
- ・本パソコンに内蔵されているワイヤレス LAN は、ワイヤレス LAN 製品の相互接続性を検証する「Wi-Fi Alliance」が定義する、ワイヤレス LAN 標準の「Wi-Fi®」に準拠しています。
- ・本パソコンに内蔵されている IEEE 802.11b、IEEE 802.11g 準拠のワイヤレス LAN と Bluetooth® は、同一周波数帯（2.4GHz）を使用するため、パソコン本体の近辺で使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。この場合、次のように対策してください。
 - Bluetooth® 機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する
 - 10m 以内で使用する場合は、パソコン本体または Bluetooth® 機器の一方の電源を切る
- ・LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スタンバイや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。なお、本パソコンを使用していない場合は、電源を切ってください。
- ・有線 LAN とワイヤレス LAN で、TCP/IP の設定などが競合しないように注意してください。
- ・本パソコンをバッテリーで運用中にワイヤレス LAN を使用する場合は、バッテリー残量に注意してください。

内蔵モデムについて

モデムを接続する

機種やモデルにより、V.92 対応のモデムが内蔵されています。MNP Class 4/5 および ITU-T V.42/V.42bis/V.44 によるエラーフリー／データ圧縮の通信が快適に行えます。また、モデムとしての機能に加え、T.30(G3)FAX の機能を持ち、FAX の送受信を行えます。

警告



- ・モジュラーケーブルを接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。



- ・雷が鳴り出したら、パソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。また、雷が鳴り出しそうときは、AC アダプタやケーブル類を取り外し、雷が止むまで取り付けないでください。
感電・火災の原因となります。またパソコンが故障するおそれがあります。

注意



- ・モデムコネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となる場合があります。



- ・モジュラーケーブルを接続する場合は、必ずモデムコネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違えると故障の原因となる場合があります。

1 パソコン本体のモデムコネクタ（..▶『ハードウェアガイド』（PDF）の「各部名称」－「各部の名称と働き」）と電話回線を、モジュラーケーブルで接続します。

重要

- ・ モデムによる接続を行う場合は、事前に現在の所在地情報を設定する必要があります。
設定方法などについては、『内蔵モデムをお使いになる方へ』（PDF）をご覧ください。

4 ドライブ関連

ドライブ構成

ドライブ	容量	備考
C	約 15GB 注	NTFS
D	約 15GB	NTFS
E	CD/DVD ドライブ	接続時

注：マイリカバリ用に約 0.3GB を占有しています。

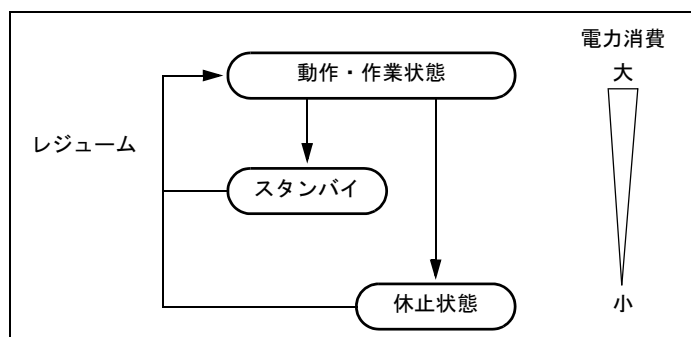
POINT

- ・ ファイルシステムを NTFS から FAT32 に変換することはできません。

ご購入時には、一定時間パソコン本体を操作しないと自動的にディスプレイの表示を消したり、スタンバイするよう設定されています。

スタンバイと休止状態

スタンバイまたは休止状態を使用すると、Windows を終了しないで節電できます。



・スタンバイ

メモリ内のプログラムやデータを、システム RAM（メモリ）に保持してパソコンの動作を中断させます。スタンバイ中は、電源ランプが青色点滅します。休止状態よりも短い時間で、中断やレジュームを行うことができます。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は、AC アダプタを接続している場合は AC 電源から、接続していない場合はバッテリーから供給されます。

・休止状態

メモリ内のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、パソコン本体の電源を切ります。そのため、スタンバイよりも中断／レジュームにかかる時間が長くなります。

注意事項

■ 共通の注意事項

- ・ ネットワークをお使いになるときは、省電力機能が働かないように設定を変更することをお勧めします（●▶ P.33）。省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。
- ・ パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- ・ スタンバイまたは休止状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- ・ 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スタンバイや休止状態にならないことがあります。
- ・ レジューム時に、画面に一瞬ノイズが発生する場合があります。
- ・ 次の場合は、スタンバイや休止状態にしないでください。
 - OS の起動処理中または終了処理中

- パソコンが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
- ハードディスクにアクセス中
- モデムで通信中
- オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
- ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
- 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
- CD や DVD に書き込みまたは書き換え中
- ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき
- ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
- ネットワークで通信中
- ・ 周辺機器の取り付け／取り外しをする前に、パソコン本体の電源を切ってください。省電力に移行した状態では行わないでください。また、周辺機器によっては、パソコン本体の電源を切らなくても接続できるものもあります。
『ハードウェアガイド』（PDF）の「ハードウェア」、または周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- ・ 本パソコンは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合は、本パソコンをスタンバイや休止状態にしないでください。
- ・ CD や DVD を読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。
- ・ ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム（Wake up on LAN）を設定すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. 「電源オプションのプロパティ」ウィンドウを表示します（●▶ P.33）。
 3. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」を「20 分後」以上に設定します。

POINT

- ・ 設定値が 20 分より短いと、本パソコンがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。

■スタンバイ時の注意事項

- ・ バッテリーを使っているときのスタンバイ可能な時間は、新品のバッテリーを満充電した状態では、約 3 日です。
- ・ スタンバイ時にはシステム RAM（メモリ）でのデータ保持のために電力を消費します。バッテリー運用の場合は、バッテリー残量に留意してください。スタンバイ中にバッテリーが切れると、作業中のデータがすべて失われてしまいます。長時間お使いにならない場合は、データを保存してから Windows を終了させ、パソコン本体の電源を切ってください。
- ・ モデム着信によるレジューム後は画面が表示されません。ポインティングデバイスを操作すると画面が表示されます。ポインティングデバイスを操作しても画面が表示されない場合は、【Space】キーなどのキーを押してください。この操作をしても画面が表示されない場合は、電源ランプが点滅していないか確認してください。点滅している場合はスタンバイになっています。電源ボタンを押して、レジュームしてください。

■ 休止状態の注意事項

- ・ プリンタなどの周辺装置を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺装置の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- ・ 休止状態では、モデム着信によるレジュームは使用できません。
- ・ ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。

省電力の設定

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの表示

本パソコンの電源を管理することができます。

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の順にクリックします。

2 「電源オプション」をクリックします。

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

設定を変更する

お使いの状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をクリックしてください。

重要

- ・ ネットワークをお使いになるときは、次の設定を行い、省電力機能が働かないようにすることをお勧めします。

省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。

「電源設定」タブの「システムスタンバイ」、「システム休止状態」を「なし」にします。また、「詳細設定」タブの「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「何もしない」にします。

■ 「電源設定」タブ

本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、節電機能が働くまでの時間を設定できます。「電源設定」から「バッテリーの最大利用」または「ポータブル／ラップトップ」を選択し、各項目を次のように変更してください。

「システムスタンバイ」：スタンバイするまでの時間を設定できます。

「システム休止状態」：休止状態にするまでの時間を設定できます。この項目は「休止状態」タブで「休止状態を有効にする」をチェックした場合のみ表示されます。

出荷時の設定は、「バッテリーの最大利用」です。出荷時設定のまままでのご使用をお勧めします。

■ 「アラーム」タブ

バッテリーの残量が少なくなったときに Windows が出す警告に関する設定をします。

音で知らせる場合は、「アラームの動作」をクリックし、「通知方法」の「音で知らせる」にチェックを付けます。

POINT

- ・「電源レベルが次に達したらバッテリー切れアラームで知らせる」のチェックを外すと、バッテリーが切れた時点で電源が切断されます。この場合は、作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。

■「詳細設定」タブ

電源ボタンを押したときや液晶ディスプレイを閉じたときの、パソコン本体の動作状態を設定します（ご購入時は、スタンバイになるように設定されています）。

「電源ボタン」の各項目を次のように変更してください。

- ・「ポータブルコンピュータを閉じたとき」
：液晶ディスプレイを閉じたときの動作を設定できます。
- ・「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
：電源ボタンを押したときの動作を設定できます。

重要

- ・「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の設定で移行したい状態に「何もしない」を選択した場合、本パソコンの動作中に液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、本パソコンが故障する原因となります。

■「休止状態」タブ

本パソコンを終了する前にメモリの内容をすべてハードディスクに保存するかを設定します。

「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」をチェックする（ご購入時にはチェックされています）と、「詳細設定」タブの「電源ボタン」の各項目で「休止状態」が選択できるようになります。

スタンバイまたは休止状態にする

各項目での動作は「電源オプションのプロパティ」ウィンドウでの設定によります。スタンバイ／休止状態にするには、次の方法があります。

「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使う

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックします。

「コンピュータの電源を切る」ウィンドウが表示されます。

2 「スタンバイ」または「休止状態」を選択します。

しばらくするとスタンバイまたは休止状態になります。

電源ボタンを使う

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウでの設定により、電源ボタンを押したときにスタンバイまたは休止状態になります（●▶「詳細設定」タブ（●▶ P.34））。

1 状態表示 LED のハードディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、電源ボタンを押します。

しばらくするとスタンバイまたは休止状態になります。

POINT

- ・電源ボタンは 4 秒以上押さないでください。電源ボタンを 4 秒以上押すと、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。

液晶ディスプレイを閉じる

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウでの設定により、スタンバイ／休止状態のどちらかに移行します。

重要

液晶ディスプレイは静かに閉じてください。

閉じるときに液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。

1 状態表示 LED のハードディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。

しばらくするとスタンバイまたは休止状態になります。

POINT

- ・「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブで「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の項目を「何もしない」に設定すると、液晶ディスプレイを閉じたときにスタンバイや休止状態にしないように設定できます。ただし、「何もしない」に設定した場合は、液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- ・省電力状態になったことを示すピピッという音を確認してください（ボリュームを小さくしていると聞こえません）。また、ハードディスクの音が止まったことを確認してください。スタンバイや休止状態にならないまま液晶ディスプレイを閉じると、放熱が妨げられ、故障の原因になります。
- ・液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイや休止状態にならない場合、液晶ディスプレイを開いて電源ボタンを押し、スタンバイや休止状態になったことを確認してから液晶ディスプレイを閉じてください。
- ・ソフトウェアの動作中には、液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイや休止状態にならない場合があります。ソフトウェアの動作が止まった後で、液晶ディスプレイを閉じてください。

スタンバイまたは休止状態からのレジューム

レジュームには、次の方法があります。

電源ボタンを使う

液晶ディスプレイが開いているときに使用します。

スタンバイからレジュームする場合は電源ランプが点滅していることを確認してください。

1 電源ボタンを押します。

しばらくすると、中断する前の画面が表示されます。

液晶ディスプレイを開く

液晶ディスプレイが閉じているときに使用します。

モデム着信によるレジューム（スタンバイ時のみ有効）

通信アプリケーションによっては、通信アプリケーションを起動したままスタンバイしておくと、モデムへの着信によって自動的にレジュームさせることができます。

なお、「モデム着信によるレジューム」の設定をしているときは、スタンバイ中に液晶ディスプレイを閉じないでください。レジューム後に放熱が妨げられ、故障の原因となります。休止状態では、モデム着信によるレジュームは使用できません。

LAN 着信によるレジューム（Wake up on LAN）

他のコンピュータから本パソコンにコンピュータ検索が行われた場合などに、自動的にレジュームさせることができます。ワイヤレス LAN をお使いの場合、Wake up on LAN 機能はお使いになれません。

なお、「LAN 着信によるレジューム」の設定をしているときは、スタンバイまたは休止状態中に液晶ディスプレイを閉じないでください。レジューム後に放熱が妨げられ、故障の原因となります。

ネットワーク環境下で Wake up on LAN 機能を使用する場合は、次のように設定してください。

1 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。

2 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。

「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。

- 4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
- 5 「Realtek RTL8139/810x Family Fast Ethernet NIC」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 6 「電源の管理」タブをクリックします。
- 7 次の2つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。
 - ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする
 - ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする

2

第 2 章

セキュリティ

本パソコンで利用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

1 セキュリティについて	40
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	41
3 不正使用からのセキュリティ	45
4 パソコンの盗難防止	47
5 パソコン本体廃棄時のセキュリティ	48

1 セキュリティについて

パソコンの使用増加に伴って、コンピュータウイルスによるシステム破壊、情報の漏えい、不正使用、盗難などの危険も増えてきています。これらの危険から大切な情報を守るために、本パソコンではさまざまなセキュリティ機能が用意されています。

ここでは、どんな危険があるか、またトラブルに備えてやっておくことについて、説明しています。

重要

- ・ 当社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切の責任を負いかねます。
セキュリティ対策は、本パソコンを使用している方が責任をもって行ってください。
- ・ セキュリティは一度行えば安心できるものではありません。パソコンを使用している方が日ごろから関心をもって、最善のセキュリティ環境にしておくことが必要です。

コンピュータウイルス

パソコンにトラブルを引き起こすことを目的として作られたプログラムです。インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染することにより、パソコンのシステムやデータの破壊、情報の漏えいといった被害を与えます。

情報の漏えい

ネットワークなどを通してパソコンに不正に侵入され、重要なデータを流出されたり破壊されたりすることがあります。また、特殊なソフトウェアを使用することにより、廃棄したパソコンから不正に情報が抜き出されることもあります。

POINT

- ・ 記録メディアを廃棄する場合も、セキュリティに気を付けてください。CD、DVDなどはディスクの読み取り部に傷をつけたり、USBメモリなどはデータを完全に消去したりすることをお勧めします。

不正使用

使用する権限のないパソコンを使用することです。パスワードを設定するなどの対策で防ぐこともできますが、容易に想像できるパスワードを使用したりすると、不正に使用される危険性が高くなります。

盗難

不正にパソコンが持ち出され、保存しているデータが不正に使用されることがあります。

トラブルに備えて

パソコンのセキュリティには、これで完全というものはありません。日ごろからデータのバックアップをとったり、ソフトウェアを最新のものにアップデートしたりするなどの対策をしておけば、被害を少なくすることができます。

2 ネットワーク接続時のセキュリティ

インターネットや電子メールなどのネットワークを利用して、情報を伝達することが多くなりました。そのため、コンピュータウイルスへの感染や、パソコン内の情報が漏えいする危険性も高まっています。

ここでは、ネットワークに接続しているパソコンを守るためのセキュリティ機能について紹介します。

ウイルス対策ソフト

Norton AntiVirus

コンピュータウイルスは、インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染し、データを破壊したりパソコンを起動できなくしたりします。また、ウイルスに感染したパソコンを使用することによって、無意識のうちに他のパソコンにウイルスを広めてしまうこともあります。

本パソコンには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「Norton AntiVirus」が用意されています。

「Norton AntiVirus」は、次のような機能でパソコンを守ります。

- ・セキュリティ上の弱点を狙った不正アクセスからパソコンを守ります。
- ・ウイルス定義ファイルを更新して、最新のウイルスからパソコンを守ります。
- ・ウイルスを検知して感染を修復します。

基本的なセキュリティ対策としては、「Norton AntiVirus」をお使いになることをお勧めします。

POINT

他のウイルス対策ソフトをお使いになる場合

他のウイルス対策ソフトをお使いになる場合は、事前に「Norton AntiVirus」を削除（アンインストール）してください。1台のパソコンに複数のウイルス対策ソフトをインストールすると、パソコンが正常に動作しないなどの不具合が発生します。

「Norton Protection Center」がセキュリティの状態を監視します

このパソコンでは、「Norton AntiVirus」の初期設定以前より「Norton Protection Center」が「セキュリティセンター」に代わってセキュリティの状態を監視します。「Norton AntiVirus」を削除（アンインストール）すると「セキュリティセンター」へ切り替わります。

「Norton AntiVirus」の初期設定の方法は次のとおりです。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus」をクリックします。

「Norton AntiVirus」画面が表示されます。この後は、メッセージに従ってください。設定の際には次の内容が行われます。

- ・更新サービスの有効期限の確認

- ・ ウィルススキャン
 - ・ 最新のウイルス定義ファイルの確認
- など

「Norton Internet Worm Protection」が不正アクセスを阻止

「Norton Internet Worm Protection」のファイアウォール機能が、Windows やソフトウェアなどのセキュリティ上の弱点を狙った不正アクセスからパソコンを守ります。

その反面、ソフトウェアやサービスの動きを遮断するのでいくつかの機能が制限されます。

「Norton AntiVirus」の初期設定をお済ませになると、このパソコンに添付のソフトウェアの機能は制限なくお使いになれます。「Norton AntiVirus」の初期設定をお済ませになっていない方は、設定をお済ませください。

LiveUpdate でウイルス定義ファイルを更新する

次々と発生する悪質なコンピュータウイルスからパソコンを守るためにはウイルス定義ファイルを常に更新する必要があります。ウイルス定義ファイルを更新するには LiveUpdate を実行します。

「Norton AntiVirus」の自動 LiveUpdate を「オン」にしておくと、インターネットに接続したとき、最新のウイルス定義ファイルに自動で更新することができます。通常は、自動 LiveUpdate を「オン」の設定でお使いになることをお勧めします。ここでは、自動で LiveUpdate を行う設定を説明します。

- 1 「Norton AntiVirus」を起動します。**
- 2 「オプション」をクリックし、表示されるメニューから「Norton AntiVirus」をクリックします。**
- 3 左側の項目の「LiveUpdate」をクリックします。**
- 4 「自動 LiveUpdate をオンにする」をクリックして自動 LiveUpdate のオン／オフを切り替え、「OK」をクリックします。**
自動 LiveUpdate のオン／オフが切り替わります。

注意事項

- ・ 「Norton AntiVirus」を起動していると、ソフトウェアが正常にインストールされなかったり、ご使用のソフトウェアによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で「Norton AntiVirus」を一時的に使用不可にしてください。
 - 「Norton AntiVirus」ウィンドウで「オプション」をクリックし、「Auto-Protect を有効にする」のチェックを外して、「OK」をクリックします。「Norton AntiVirus」ウィンドウは次の手順で表示できます。
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus 2006」の順にクリックします。
 - 「Norton AntiVirus」のアイコンが画面右下の通知領域に表示されている場合は、そのアイコンを右クリックし、「終了」をクリックします。

- ・「Norton AntiVirus」でコンピュータウイルス検査を実行しているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行しないでください。
- ・「Norton AntiVirus」は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイルと、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。定期的に更新してください。スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の「Norton AntiVirus」をご購入ください。
- ・「Norton AntiVirus」については、株式会社シマンテックにお問い合わせください。

ワイヤレス LAN 使用時の通信データの暗号化

ワイヤレス LAN を使ってネットワークに接続すると、無線が届く範囲内にある他のワイヤレス LAN 搭載機器から通信内容を他人に読み取られてしまう危険性があるので、データを暗号化することが必要です。

本パソコンには、ワイヤレス LAN のデータを暗号化するための機能が搭載されています。

詳しくは、『ワイヤレス LAN をお使いになる方へ』（PDF）をご覧ください。

なお、ワイヤレス LAN（無線 LAN）のアクセスポイント経由でネットワークに接続している場合は、アクセスポイントのマニュアルもご覧ください。

Windows やソフトウェアのアップデート

お使いの Windows やソフトウェアに脆弱性（セキュリティホール）と呼ばれる弱点が発見されることがあります。これらの脆弱性が悪用されると、コンピュータウイルスなどの悪意あるプログラムが作られる可能性があります。脆弱性をそのまま放置しておくと、お使いのパソコンに悪意あるプログラムが侵入する危険性があります。

その対策として、システムやソフトウェアを提供している各社が修正プログラムを無料で配布しています。新しい修正プログラムが発表されたときには、内容を確認の上、お使いのパソコンに適用してください。

Windows では、「Windows Update」で Windows やソフトウェアなどを最新の状態に更新できます。最新の状態にすることにより、ウイルスが侵入したり、不正アクセスされたりするセキュリティホールをなくすための対策もされます。

Office 製品についても、マイクロソフト社のホームページから、「Office のアップデート」を実行することにより、最新の状態に更新できます。

「Windows Update」を実行する

POINT

- ・「Windows Update」を実行するためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。
- ・「Windows Update」は表示されるメッセージに従って行ってください。
 - ・優先度の高い更新プログラムについては、適用されることをお勧めします。
 - ・ハードウェア用の更新プログラムは適用しないでください。ただしお客様が追加されたデバイスについてはお客様の判断で適用してください。
 - ・自動更新機能を使うと、「Windows Update」を自動的に行うように設定をすることができます。設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。ご購入時の設定では、インターネットに接続しているときに、優先度の高い更新プログラムを自動更新するように設定されています。必要に応じて設定を変更してください。

- ・「Windows Update」は、マイクロソフト社が提供するサポート機能です。「Windows Update」で提供されるプログラムについては、弊社がその内容や動作、および実施後のパソコンの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。
- ・「Windows Update」のバージョンがアップされている場合は、「Windows Update」のホームページの案内に従って、実行してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックします。

「Windows Update」の画面が表示されます。

POINT

- ・ Windows や Office 製品などのマイクロソフト社が提供するソフトウェアの更新プログラムを1度に入手できる「Microsoft Update」を利用することもできます。「Microsoft Update」を利用するには、マイクロソフト社のホームページから専用のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、「Windows Update」のホームページにあるリンクをクリックし、「Microsoft Update」のホームページをご覧ください。

2 「カスタム」をクリックします。

パソコンの状態を診断し、更新情報を取得します。

更新情報のリストが表示されます。

3 内容を確認し、更新したくない項目がある場合はその項目のチェックを外します。

通常は、優先度の高い更新プログラムについてはすべての項目を更新することをお勧めします。

4 「更新プログラムの確認とインストール」をクリックします。

POINT

- ・ インターネットへ情報を送信するにあたっての注意が表示されたら、「はい」をクリックします。

5 「更新プログラムのインストール」をクリックします。

この後は、表示される画面に従って操作してください。

3 不正使用からのセキュリティ

2

パソコンを使用する権限のない人が不正にパソコンを使用して、データを破壊したり漏えいしたりする危険からパソコンを守ることが必要になってきています。ここでは、本パソコンで設定できるパスワードや機能などについて説明します。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、パソコンの安全性も高まります。

重要

- ・ パソコンの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ・ パスワードを何かに書き留める際は、第三者に知られないように安全な場所に保管してください。また、数字だけでなく英数字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

Windows のパスワード

OS の起動時やレジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。複数のユーザーで 1 台のパソコンを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。

パスワードの設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。

管理者権限とユーザーアカウント

Windows XP では、管理者権限を持ったユーザーアカウントを作成できます。管理者は、他のユーザーアカウントのセットアップや管理などを行うことができます。管理者がパソコンを使用するユーザーを管理することで、パソコンの安全性も高まります。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

アクセス権と暗号化

Windows XP では、ファイルシステムとして NTFS を使用しています。NTFS では、次のようなことができます。

- ・ フォルダやファイルへのアクセス権の設定
ユーザーまたはグループごとに権限を設定できるため、権限のないユーザーからのアクセスに対してファイルを保護することができます。
- ・ フォルダやファイルの暗号化
不慮の事故でハードディスクを紛失しても、簡単にファイルの内容を判別できないように保護することができます。

アクセス権を設定したり暗号化することにより、権限のないユーザーから大切なデータを守ることができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

BIOS のパスワード

パソコンの起動時やレジューム時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、パソコンの設定が変更できなくなるなどの制限が付きまします。

また、パソコンのハードディスク自体にパスワードを設定できます。ハードディスクにパスワードを設定しておく、パスワードを知っている人以外はハードディスクに入っている情報が読み出せなくなります。

詳しくは、『ハードウェアガイド』（PDF）の「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」をご覧ください。

指紋センサー

重要

- ・指紋センサーをひっかいたり、先のとがったもので押したり、濡らしたりしないでください。指紋センサーに傷がつき、故障の原因となることがあります。
- ・パソコン本体の使用、指紋センサー表面が温かくなることがありますが、故障ではありません。
- ・指紋センサーが汚れた場合は、除電用金具に触れてから、乾いた柔らかい布でセンサー表面の汚れを軽く拭き取ってください。

パソコン本体の起動時や省電力からの復帰時のセキュリティを設定できます。OS で設定しているユーザーアカウントやパスワードごとに設定できるので、1 台のパソコンに複数のユーザーの指紋を登録できます。

パソコンを使用する場合は、指紋センサー部で指をスライドします。パスワードを覚える必要がなく、個々の指紋を記憶できるので、簡単に安全に使用できます。

詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、不正なメモリ領域を使用して悪意のあるプログラムを実行可能にするバッファ・オーバーフロー脆弱性を防止する機能です。

4 パソコンの盗難防止

パソコンの盗難という危険性があります。パソコンを鍵のかかる場所に設置または保管するなどの対策をとることもできますが、パソコン自体にも盗難防止用の機能が備えられています。

本パソコンの盗難防止用ロック取り付け穴に盗難防止用ケーブルを取り付けることで、パソコン本体の盗難の危険性が減少します。

盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、『ハードウェアガイド』（PDF）の「各部名称」－「各部の名称と働き」をご覧ください。

5 パソコン本体廃棄時のセキュリティ

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- データを「ゴミ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ゴミ箱を空にする」を使って消す
- ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ハードディスクをご購入時の状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS からデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

パソコンの廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアやサービス（有料）を利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

本パソコンには、パソコンの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の一つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、Windows などの OS によるファイル削除や初期化と違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

「ハードディスクデータ消去」の使い方については、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」（●▶ P.52）をご覧ください。

ハードディスクのデータ消去サービスについて

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	専用ソフトウェアを使って、ハードディスクに対して 2 回上書き（ランダムデータ + 0 データ）する事により残存するデータを完全に消去します。DoD や NSA など海外の各種消去規格にも対応可能です。
ハード消去	消磁装置を使用してハードディスクを磁氣的に破壊します。（最大磁力：13000 ガウス）

消去証明として富士通が消去証明書を発行し、消去済ナンバリングシールを対象ディスクに貼付して、納品物とします。

詳しくは、「データ消去サービス」（http://segroup.fujitsu.com/fs/services/h_elimination/）をご覧ください。

お問い合わせ／お申し込み先メールアドレス：fbprj@support.fujitsu.com

3

第 3 章

ソフトウェア

ソフトウェアについて説明しています。

1 ソフトウェア一覧	52
------------------	----

1 ソフトウェア一覧

POINT

- 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
- 添付されているソフトウェアは「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」に格納されています。

◎：プレインストール（添付あり） △：添付のみ

名称	搭載状況
FMV ユーザー登録 (●▶ P.53)	◎
FM かんたんインストール (●▶ P.53)	◎
FM かんたんバックアップ (●▶ P.53)	◎
RealPlayer (●▶ P.53)	◎
MyMedia (●▶ P.53)	◎
Norton AntiVirus (●▶ P.54)	◎
アップデートナビ (●▶ P.54)	◎
マイリカバリ (●▶ P.54)	◎
IndicatorUtility (●▶ P.54)	◎
富士通タブレットコントロール (Fujitsu Button Utilities) (●▶ P.55)	◎
Adobe® Reader™ 7.0.5 (Adobe Reader) (●▶ P.55)	◎
FMV 診断 (●▶ P.55)	◎
Roxio DigitalMedia SE (●▶ P.55)	◎
WinDVD (●▶ P.55)	◎
Plugfree NETWORK (●▶ P.55)	◎
Alps Pointing-device Driver (●▶ P.55)	◎
ハードディスクデータ消去 (●▶ P.56)	△
省電力ユーティリティ	◎

各ソフトウェアの紹介

POINT

- ・インストールには CD/DVD ドライブが必要です。ポータブル CD/DVD ドライブを接続してください。
- ・「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。

FMV ユーザー登録

■ 概要

FMV シリーズのパソコンのユーザー登録を行うソフトウェアです。

ユーザー登録については、添付の冊子『サポート & サービスのご案内』をご覧ください。

FM かんたんインストール

■ 概要

添付の「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」に収録されているソフトウェアをパソコンにインストールしたり、パソコンから削除（アンインストール）したりできます。

必要なソフトウェアをクリックするだけで、簡単にインストールできます。

FM かんたんバックアップ

■ 概要

いざというときに備えて、大切なデータやインターネットに関する設定をバックアップ（保存）するためのソフトウェアです。バックアップをとってあれば、データやインターネットに関する設定を、簡単に元に戻すことができます。

RealPlayer

■ 概要

インターネット上に用意されている音楽や映像を再生するためのプレーヤーです。

大きなサイズの音声や動画ファイルでも、ダウンロードの完了を待つことなく再生します。

MyMedia

■ 概要

このパソコンに保存した写真やビデオを見たり、音楽 CD や DVD-VIDEO の再生をしたりできるソフトウェアです。

ネットワーク上のパソコンに「MyMedia」がインストールされていれば、自分のパソコンの音楽、画像、動画のファイルを、ネットワーク上のパソコンに公開し、見てもらうことができます。

Norton AntiVirus

■ 概要

パソコンをコンピュータウイルスから守るためのソフトウェアです。

ハードディスクドライブや CD/DVD ドライブのチェックはもちろん、電子メールの送受信の際にもウイルスをチェックします。ウイルスを発見した場合、可能な限り駆除されます。ウイルス定義ファイルは、常に最新のものに更新できるので、次々と現れる新種ウイルスにも威力を発揮します。

詳しくは、「セキュリティ」－「ネットワーク接続時のセキュリティ」(●▶ P.41)をご覧ください。

アップデートナビ

■ 概要

インターネットを経由して、富士通が推奨する最新情報を確認し、お使いのパソコンが安定して動作するお勧めの状態にすることができます。画面に表示されるメッセージに従って操作すると、簡単にアップデート（更新）できます。

マイリカバリ

■ 概要

現在の C ドライブのディスクイメージを保存できます。

Windows などのシステムが不安定になった場合でも、今まで使っていた設定や環境にすぐに復元することができます。

操作方法については『取扱説明書』をご覧ください。

IndicatorUtility

■ 概要

音声ボリューム、内蔵ポインティングデバイスの状態変更が行われた場合に、パソコンの画面上にインジケータを表示するユーティリティです。

この機能を利用すると、携帯時に画面の明るさを自動的に暗くすることにより、バッテリー節約に役立てることができます。

■ インストール方法

POINT

- ・「IndicatorUtility」を再インストールする場合は、「IndicatorUtility」をインストールする前に、「FUJ02B1 デバイスドライバ」がインストールされていることを確認してください。インストール方法については、「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」内の「¥app¥indiuty¥fuj02b1.txt」をご覧ください。また、インストールする前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

富士通タブレットコントロール (Fujitsu Button Utilities)

■ 概要

タブレットモード時などの使用環境にあわせて、ディスプレイ表示の設定を保存したり、自動的に変更したりする機能があります。

設定方法については、「富士通タブレットコントロール」のヘルプをご覧ください。

Adobe Reader

■ 概要

PDF (Portable Document Format) ファイルを表示、閲覧、印刷できます。

FMV 診断

■ 概要

ハードウェアの故障箇所を的確に診断します。

Roxio DigitalMedia

■ 概要

パソコンのデータや音楽、映像データを CD や DVD に保存するためのソフトウェアです。使用方法については、ソフトウェア内のヘルプをご覧ください。

POINT

- ・ DVD+R DL にデータ書き込みを行う場合、DVD-ROM との互換性を高めるために「Extended Partial Lead-out」(約 512MB) が書き込まれます。このため、最大書き込み容量は約 7.99GB となります。

WinDVD

■ 概要

映画や音楽などの DVD を再生するアプリケーションです。

Plugfree NETWORK

■ 概要

通信環境判別／切り替えソフトです。

Alps Pointing-device Driver

■ 概要

スティックポイントの機能を拡張します。スクロールボタンを使用するためには、「Alps Pointing-device Driver」が必要です。

ハードディスクデータ消去

■ 概要

ハードディスク内のデータを消去します。詳しくは「セキュリティ」－「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」（●▶ P.48）をご覧ください。

■ 注意事項

- ・本ツールでは、本パソコンに内蔵されているハードディスクのみを対象としています。このため、外付けのハードディスクのデータを消去することはできません。
- ・1回の操作でデータを消去できるハードディスクは1つです。複数のハードディスクを消去する場合は、システムを再起動してからハードディスクデータ消去を実行する必要があります。
- ・必要なデータはバックアップしてください。
- ・「ハードディスクデータ消去」を実行する場合は、ACアダプタを接続してください。
- ・周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- ・データ消去終了まで、数時間かかります。
- ・データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- ・データ消去中に「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」を取り出さないでください。処理が継続できなくなる場合があります。

■ データ消去法

次のものを用意してください。

- ・リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1

🔍 POINT

- ・ポータブル CD/DVD ドライブを接続してください。

1 「リカバリ&ユーティリティディスク/アプリケーションディスク1」をセットします。

2 Windows を再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。
メニューが表示されます。

🔍 POINT

- ・メニューが表示されない場合は、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して Windows を再起動してください。

4 「CD-ROM ドライブ」を選択し、【Enter】キーを押します。
「使用許諾」ウィンドウが表示されます。

- 5 「使用許諾」をよく読み、「同意します」をクリックします。
「リカバリメニュー」ウィンドウが表示されます。
- 6 「メニュー」から「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をクリックします。
「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。
- 7 注意事項をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「データを消去するハードディスクを1台選択してください。」と表示されます。
- 8 データを消去するハードディスクにチェックを付け、「次へ」をクリックします。
「データを消去する方式を選択してください。」と表示されます。
- 9 消去する方法を選択し、「次へ」をクリックします。
「以下の説明をお読みになり、エラー発生時の処理を選択してください。」と表示されます。
- 10 エラー発生時の処理方法を選択し、「次へ」をクリックします。
「以下の条件で、データの消去を開始します。よろしいですか?」と表示されます。
- 11 「開始」をクリックします。
「ハードディスクデータ消去を実行します。よろしいですか?」と表示されます。
- 12 「OK」をクリックします。
「電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ってください。」と表示されます。
- 13 電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ります。

アンインストール方法

注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ・ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始める
- ・DLL ファイルは削除しない

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「この DLL は複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか」
この DLL ファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- ・アンインストール機能を使用する
ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- ・「プログラムの追加と削除」機能を使用する
「コントロールパネル」ウィンドウの「プログラムの追加と削除」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳細は各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

インストール方法

「リカバリ & ユーティリティディスク / アプリケーションディスク 1」について

「リカバリ&ユーティリティディスク/アプリケーションディスク1」に収録されているソフトウェアの一覧については、「リカバリ&ユーティリティディスク/アプリケーションディスク1」内にある「indexcd.htm」をご覧ください。

4

第 4 章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1	トラブルに備えて	60
2	トラブル発生時の基本操作	63
3	起動・終了時のトラブル	67
4	OS・アプリケーション関連のトラブル	69
5	ハードウェア関連のトラブル	71
6	それでも解決できないときは	81

1 トラブルに備えて

テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本パソコンは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本パソコンの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じて、本パソコンの故障ではありません。テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点に注意してください。

本パソコンの注意事項

- ・ 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ・ ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- ・ 本パソコンの AC アダプタは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

テレビやラジオなどの注意事項

- ・ テレビやラジオなどを、本パソコンから遠ざけて設置してください。
- ・ テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- ・ テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを、本パソコンから遠ざけてください。
- ・ アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

本パソコンや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本パソコンや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、前述の項目を再点検してください。それでも改善されない場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。

Windows のセットアップ後の操作

Windows のセットアップが終了したら、バックアップを行ったり、セキュリティホール対策のための修正プログラムを適用したりすることをお勧めします。

- ・ 「セキュリティ」－「Windows やソフトウェアのアップデート」(●▶ P.43)

『取扱説明書』もあわせてご覧ください。

修正プログラムの適用について

セキュリティの強化、安定したシステム運用のため、本パソコンに最新のサービスパックや修正モジュールを適用することを基本的にお勧めします。ただし、お客様の環境によっては、サービスパックや修正モジュールの適用により、予期せぬ不具合が発生する場合がありますので、ご利用前には「Readme.txt」などを必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したときのことを考慮し、システムのバックアップをとることをお勧めいたします。

なお、弊社のサポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。また、「アップデートナビ」を利用すると、本パソコンに関連したソフトウェアを自動的にダウンロードすることができます。

Windows については、「Windows Update」で最新の修正プログラムを入手できます。Office 製品については、「Office のアップデート」で最新の修正プログラムを入手できます。

データのバックアップ

ハードディスクに障害が発生した場合などは、データが失われることがあります。必要なデータは CD などの別媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

コンピュータウイルス対策

重要

- ・コンピュータウイルスに感染したことにより本パソコンの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ウイルスの感染を防ぐために、「Norton AntiVirus」を使用したり、「Windows Update」を行うなどの対策を取ってください（「セキュリティ」（●▶ P.39））。

コンピュータウイルスはプログラムの 1 つで、なんらかの方法でコンピュータ内に読み込まれる（感染する）と、コンピュータウイルス自身で増殖し、大切なデータを壊したり、コンピュータを起動できなくしたりといった悪影響を及ぼします。

Norton AntiVirus

ウイルスを発見するためのソフトとして、「Norton AntiVirus」が用意されています。電子メールに添付されたファイルや入手したデータなどは、ウイルスチェックを実行したうえでお使いください。また、パソコンのハードディスクは定期的にウイルスチェックを実行してください。

「Norton AntiVirus」については、「セキュリティ」－「ネットワーク接続時のセキュリティ」（●▶ P.41）をご覧ください。

自動車内での使用について

パソコン本体を自動車内に設置した状態での使用は、保証しておりません。

ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールを行う前に、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

- ・ハードウェア／ソフトウェア要件

使用したい周辺機器やソフトウェアが本パソコンのハードウェア構成や OS で使用できるか確認します。

- ・取り付け時やインストール時に注意すべき点

特に「Readme.txt」や「Install.txt」などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずに目を通してください。

また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web 上の情報もあわせて確認してください。ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。

- ・製品出荷後に判明した問題などの最新情報
- ・問題が解決されたドライバやソフトウェアの修正モジュール

弊社のサポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) でも、本パソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

2 トラブル発生時の基本操作

本パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本パソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- ・電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？ またゆるんだりしていませんか？
- ・電源コンセント自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- ・OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- ・使用する装置の電源スイッチはすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- ・キーボードの上に物を載せていませんか？
キーが押され、本パソコンが正常に動作しないことがあります。

この他、「起動・終了時のトラブル」（●▶ P.67）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- ・周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ・ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、Web 上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください（●▶ P.62）。

発生したトラブルに該当する記述があれば、ドキュメントの指示に従ってください。

前回起動時の構成に戻す

問題が発生した周辺機器を取り外したにもかかわらず Windows が起動しない場合は、前回起動時の構成に戻してみてください。

1 本パソコンの電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。

「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。

【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

3 「前回正常起動時の構成（正しく動作した最新の設定）」を選択し、【Enter】キーを押します。

画面の指示に従って操作します。

Safe モードで起動する

Windowsが起動しない場合、Safeモードで起動できるか確認してください。
起動方法は、次のとおりです。

1 本パソコンの電源を入れます。

2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。

「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。

【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。

「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。

4 お使いの OS が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。

5 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。

「Administrator パスワード」を設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。

「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。

6 「はい」をクリックします。

バックアップを行う

ハードディスクの障害などで本パソコンの動作が不安定になった場合は、必要なデータをだちにバックアップしてください。

メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルで該当する障害を検索する際や、お問い合わせの際に役立ちます。

診断／修正プログラムを使用する

本パソコンでは、次のパソコン診断／修正プログラムを用意しています。

- ・「FMV 診断」(●▶ P.65)
- ・「QT-PC/U」(●▶ P.65)

FMV 診断

「FMV 診断」でハードウェアの障害箇所を診断できます。

POINT

- ・起動中のアプリケーションや常駐プログラムはすべて終了してください。
- ・スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。
- ・CD/DVD ドライブを診断する場合は、お手持ちの CD-ROM をセットしてください。
- ・ネットワーク機能の診断を行う場合は、あらかじめ固定 IP を設定しておいてください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FMV 診断」の順にクリックします。

この後はメッセージに従って操作します。

QT-PC/U

Windows が起動しないために「FMV 診断」が使用できない場合、「診断プログラムディスク」から起動できる「QT-PC/U」を使用することで、ハードウェアの障害箇所を診断できます。診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、「富士通パーソナルエコーセンター」にお問い合わせの際にお知らせください。

診断時間は通常 5 ～ 10 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

次のものを用意してください。

- ・診断プログラムディスク

POINT

- ・ポータブル CD/DVD ドライブを接続してください。

1 「診断プログラムディスク」をセットします。

2 本パソコンの電源を一度切り、再び電源を入れます。

3 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されている間に、【F12】キーを押します。

メニューが表示されます。

【F12】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

4 【↓】を押して「CD-ROM ドライブ」を選択し、【Enter】キーを押します。

自動的に診断が開始されます。診断は各項目について行われ、各項目の診断結果が画面の「STATUS」の部分に表示されます。

- ・診断でエラーが発生した場合は、「STATUS」部に「ERROR」と表示され、画面の「Message Display」部に 8 桁のエラーコードが表示されます。

お問い合わせの際は、表示されたエラーコードをお知らせください。

- ・診断でエラーが発生しなかった場合は、「STATUS」部に「NO ERROR」と表示されます。

5 診断が終了し、画面の「Message Display」部に次のように表示されたら、CD-ROM を取り出します。

Press Ctrl + ALT + DEL for power off

6 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押します。

7 次のように表示されたら、【Enter】キーを押します。

[Ctrl+ALT+DEL Push] -> Power off execute ok (ENTER)?

約 5 秒後に電源が切れます。

ただし、機種によっては次のように表示され、自動的に電源が切れない場合があります。

Please power off manually

この場合は、パソコン本体の電源を切ってください。

リカバリ

トラブル発生時の基本操作をした後も回復しない場合には、リカバリを実行します。リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

リカバリ後も状態が改善されない場合は

リカバリ後も状態が改善されない場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

3 起動・終了時のトラブル

■メッセージが表示された

電源を入れた後の自己診断 (POST) 時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、『ハードウェアガイド』(PDF) の「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」をご覧ください。

■電源が入らない

- ・ AC アダプタは接続されていますか？
お買い上げ後最初にお使いになるときなど、バッテリーが充電されていない場合は、ACアダプタを接続してください。また、電源スイッチ付きのACタップをお使いの場合は、ACタップの電源をONにしてください。
- ・ バッテリーは充電されていますか？ (バッテリー運用時)
状態表示 LED のバッテリー残量ランプで、バッテリーの残量を確認してください。
バッテリー残量表示、および確認方法については、『ハードウェアガイド』(PDF) の「ハードウェア」－「バッテリー残量を確認する」をご覧ください。
バッテリーが充電されていない場合は、AC アダプタを接続してお使いください。
- ・ 長期間未使用状態ではありませんでしたか？
長期間お使いにならなかった後でお使いになるときは、AC アダプタを接続してから電源を入れてください。

■画面に何も表示されない

- ・ 電源表示ランプは点灯していますか？
 - 点灯している場合
【Fn】+【F6】キー、または【Fn】+【F7】キーを押して明るさを調節してください。
 - 点滅または消灯している場合
電源ボタンを押して動作状態にしてください。また、バッテリー運用時は、バッテリーが充電されているか確認してください。充電されていないときには、AC アダプタを接続して充電してください。
AC アダプタをお使いになっている場合は、コンセント、およびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- ・ キーを操作していましたか？
本パソコンには省電力機能が設定されており、一定時間キーを押さないと CPU が停止したり、液晶ディスプレイのバックライトが消灯したりします (何かキーを押すとバックライトが点灯します)。頻繁に停止してしまうときは、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで省電力の設定を変更してください。
- ・ 外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？
外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。「機能」－「表示装置の切り替え」(●▶ P.16) をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。
- ・ 外部ディスプレイを使用している場合 (●▶ P.16、●▶ P.19)、次の項目を確認してください。
 - パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？
 - セットアップ前に、外部ディスプレイを接続していませんか？
必ずセットアップ後に接続してください。

- ・解像度や走査周波数は、外部ディスプレイに合った設定になっていますか？（外部ディスプレイに表示している場合）
そのまま 15 秒くらい待っても、液晶ディスプレイ表示に戻らない場合は、本パソコンを強制終了してください。
その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。
「機能」－「外部ディスプレイの走査周波数について」（●▶ P.22）をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してから、外部ディスプレイ表示への切り替えを行ってください（●▶ P.16）。

■ペン／マウス／ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない

- ・キーボードを使って Windows を終了させることができます。
 1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。
 2. 【↑】【↓】キーで終了メニューの選択、【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。
ペン／マウス／ポインティングデバイスが故障している場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元に連絡してください。

■Windows が動かなくなってしまう、電源が切れない

- ・次の手順で Windows を終了させてください。
 1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
 2. Windows を終了します。
表示されるウィンドウによって手順が異なります。
 - ・「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示された場合
「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。
 - ・「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示された場合
 1. 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されます。
 2. 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。

POINT

- ・強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ・強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（●▶ P.74）。

この操作で強制終了されないときは、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れます。

4 OS・アプリケーション関連のトラブル

ここでは、OS、アプリケーションに関連するトラブルを説明します。トラブルに合わせてご覧ください。

■ Windows が起動しなくなった

- ・ 周辺機器を取り付けませんでしたか？
いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.63）。
もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。
- ・ Safe モードで起動できますか？
いったん Safe モードで起動し（●▶ P.64）、問題を解決してください。
- ・ 「診断プログラムディスク」に入っている「QT-PC/U」という診断プログラムで、パソコンの診断をしてください（●▶ P.65）。
「QT-PC/U」でエラーが発生しなかった場合は、リカバリを実行し、本パソコンをご購入時の状態に戻してください（●▶ 『取扱説明書』）。
それでも解決しない場合は、「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ・ Windows を正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的に Safe モードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのまま Safe モードで起動し、起動が完了したら Windows を再起動してください。

■ プログラムが動かなくなってしまった

- ・ 次の手順でプログラムを終了させてください。
 1. 【Ctrl】 + 【Shift】 + 【Esc】 キーを押します。
「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「アプリケーション」タブをクリックします。
 3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。
 4. 「Windows タスクマネージャ」ウィンドウを閉じます。

POINT

- ・ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ・ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（●▶ P.74）。

■ 省電力機能が実行されない

- ・ 「コントロールパネル」や BIOS の設定を確認してください。
省電力機能の詳細については、「機能」－「省電力」（●▶ P.31）をご覧ください。

■ バッテリー運用時に画面がちらつく

- ・ ご購入時の状態で、本パソコンをバッテリー運用すると、液晶ディスプレイの消費電力を節約するインテル®ディスプレイ省電テクノロジーの機能が有効となり、画面がちらついて見えたり、画質が変化しているように見えたりする場合があります。
「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」（●▶ P.8）をご覧ください。

■ 周辺機器の動作が不安定になった

- ・ なんらかの理由でドライバが削除されているか破損している場合があります。
ドライバを再インストールしてください。

■ ソフトウェアのインストールが正常に行われない

- ・ ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、ソフトウェアのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各ソフトウェアのサポート窓口にお問い合わせください。

■ 画面右下の通知領域にソフトウェアのアイコンが表示されない

- ・ Windows を起動したあと、通知領域に表示されるはずのソフトウェアのアイコンが表示されないことがあります。
通知領域にアイコンが表示されなかったソフトウェアをお使いになる場合は、次のいずれかの方法を実行してください。
 - 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」の順にクリックし、表示されるメニューからアプリケーションを選択する
 - 「スタート」ボタン→「終了オプション」→「再起動」の順にクリックし、Windows を再起動する

POINT

- ・ Windows を起動したあと、通知領域にアイコンが表示されなかった場合、ソフトウェアによっては起動できなかったことを通知するメッセージが表示されることがあります。
この場合、メッセージに従って、Windows を再起動してください。

5 ハードウェア関連のトラブル

ハードウェア関連のトラブル一覧

- ・ BIOS の「管理者用パスワードを忘れてしまった」 (●▶ P.72)
- ・ 「ユーザー用パスワードを忘れてしまった」 (●▶ P.72)
- ・ パソコン本体起動時に「エラーメッセージが表示された」 (●▶ P.72)
- ・ 「仮想メモリが足りない」 (●▶ P.72)
- ・ 「ネットワークに接続できない」 (●▶ P.73)
- ・ 「ネットワークリソースに接続できない」 (●▶ P.74)
- ・ 内蔵モデムで「通信ができない」 (●▶ P.74)
- ・ 「ハードディスクが使えない」 (●▶ P.74)
- ・ 「ハードディスクからカリカリ音がする」 (●▶ P.74)
- ・ 頻繁にフリーズするなど動作が不安定 (●▶ P.74)
- ・ (CD/DVD) 「ディスクからデータの読み出しができない」 (●▶ P.75)
- ・ (CD/DVD) 「ディスクが取り出せない」 (●▶ P.XX)
- ・ 「WinDVD が起動しない」 (●▶ P.75)
- ・ 「DVD の再生が円滑に行われない」 (●▶ P.75)
- ・ 「外部ディスプレイに再生画面が表示されない」 (●▶ P.76)
- ・ 「DVD の再生音が小さい」 (●▶ P.76)
- ・ 「状態表示 LED のバッテリー残量ランプが赤色に早い間隔で点滅している」 (●▶ P.76)
- ・ 「状態表示 LED のバッテリー充電ランプがオレンジ色に点滅している」 (●▶ P.76)
- ・ 「バッテリーが充電されない」 (●▶ P.76)
- ・ 「画面に何も表示されない」 (●▶ P.77)
- ・ 「ディスプレイの表示が見にくい」 (●▶ P.77)
- ・ 「液晶ディスプレイが閉まらない」 (●▶ P.77)
- ・ 「表示が乱れる」 (●▶ P.77)
- ・ 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」 (●▶ P.78)
- ・ 「マイクからうまく録音ができない」 (●▶ P.78)
- ・ 「押したキーと違う文字が入力される」 (●▶ P.78)
- ・ 「マウスカーソルが動かない」 (●▶ P.78)
- ・ 「タッチパネルのポインタ位置がずれる」 (●▶ P.79)
- ・ 「ペン/マウス/ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない」 (●▶ P.79)
- ・ 「USB デバイスが使えない」 (●▶ P.79)
- ・ 「USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される」 (●▶ P.79)
- ・ 「プリンタを使用できない」 (●▶ P.80)
- ・ 「使用中の製品に関する最新情報を知りたい」 (●▶ P.80)

BIOS

■管理者用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

■ユーザー用パスワードを忘れてしまった

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。パソコンの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。パスワードの設定方法については、『ハードウェアガイド』（PDF）の「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」をご覧ください。

■エラーメッセージが表示された

パソコン本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。エラーメッセージの内容と意味については、『ハードウェアガイド』（PDF）の「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」をご覧ください。

メモリ

■仮想メモリが足りない

仮想メモリ（ページングファイル）の設定を行います。
仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに十分な空き容量がないときは、別のドライブに設定してください。
ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ +1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

POINT

仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。

初期サイズ：本体搭載メモリの 1.5 倍

最大サイズ：初期サイズの 2 倍

- 1** 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 2** 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。

「パフォーマンスオプション」ウィンドウが表示されます。

4 「詳細設定」タブをクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。

「仮想メモリ」ウィンドウが表示されます。

5 ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。

システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。

6 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。

7 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

8 Windows を再起動します。

4

内蔵 LAN

■ ネットワークに接続できない

- ・ ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
パソコン本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ・ ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
 - ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - 100Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 以上のケーブルを使用してください。
- ・ 内蔵 LAN に関して、次の項目を確認してください。
 - ワイヤレス LAN 設定が正しく設定されていますか？
必要に応じて、『ワイヤレスLANをお使いになる方へ』(PDF) をご覧になり、再度設定等を確認してください。
ワイヤレス LAN と有線 LAN で、同じ設定にはできません。
- ・ TCP/IP プロトコルをお使いの場合は、コマンドプロンプトで次のように入力し、「Reply from ~」という応答が表示されるか確認してください。

```
ping nnn.nnn.nnn.nnn
```

(nnn には通信相手の IP アドレスを入力します)
- ・ ハブに関して、次の項目を確認してください。
 - 電源は入っていますか？
 - ACT/LNK ランプは点灯していますか？
 - Speed (100Mbps/10Mbps/Auto)、Duplex (Full/Half/Auto) の設定は、パソコン側の設定と合っていますか？
- ・ 画面右下の通知領域に LAN の接続状況が表示されますので、確認してください。

- ・スタンバイや休止状態にしませんでしたか？
LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スタンバイや休止状態にしないことをお勧めします。
お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。

■ネットワークリソースに接続できない

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

- ・お使いのネットワークに適したコンポーネント（クライアント / サービス / プロトコル）をインストールしていますか？
- ・各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- ・サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- ・サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- ・サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

内蔵モデム

■通信ができない

- ・モジュラーケーブルは正しく接続されていますか？
パソコン本体との接続、電話回線の接続を確認してください。
- ・モジュラーケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
- ・内蔵モデムに関して、次の項目を確認してください。
 - 外線発信番号、回線種類（トーン、パルス）などの設定は正しいですか？

ハードディスク

■ハードディスクが使えない

- ・エラーメッセージは出ていませんか？
『ハードウェアガイド』（PDF）の「BIOS」－「BIOS が表示するメッセージ一覧」をご覧ください。

■ハードディスクからカリカリ音がする

- ・次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。
 - Windows を終了した直後
 - スタンバイや休止状態にした直後
 - パソコンの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
 - 中断した状態から再度パソコンを操作させた場合
 - パソコンを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）
- これはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

■頻繁にフリーズするなど動作が不安定

- ・次の手順でハードディスクをチェックしてください。
 1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
 2. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。

3. プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 4. 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
 5. 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。
「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックしてCドライブを検査する場合は、「次のコンピュータの再起動後に、このディスクの検査を実行しますか?」と表示されます。「はい」をクリックすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。
 6. 「OK」をクリックします。
- 修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリを実行してください(●▶『取扱説明書』)。

POINT

- ・新しいユーザーを作成すると、エラーメッセージが表示されることがあります。この場合も、同様の手順で CHKDSK コマンドを実行してください。

なお、ハードディスクのチェックは、CHKDSK コマンドではなく、ディスクのプロパティの「ツール」タブから行うことをお勧めします。

CD / DVD

■ ディスクからデータの読み出しができない

- ・ディスクが正しくセットされていますか？
ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。
- ・ディスクが汚れていたり、水滴がついたりしていませんか？
汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- ・ディスクが傷ついたり、極端に反っていたりしませんか？
ディスクを交換してください。
- ・規格外のディスクを使用していませんか？
規格に合ったディスクをお使いください。

■ WinDVD が起動しない

- ・市販されているアンチウイルスソフトを起動していませんか？
市販されているアンチウイルスソフトと「WinDVD」を同時に起動することはできません。アンチウイルスソフトを終了してから、「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンの「Norton AntiVirus」は問題ありません。
- ・自動検索機能付きのアンチウイルスソフト（市販）をインストールしていませんか？
自動検索機能付きのアンチウイルスソフトをインストールしていると、「WinDVD」を起動することはできません。
アンチウイルスソフトをアンインストールしてから「WinDVD」を起動してください。なお、本パソコンに添付の「Norton AntiVirus」は問題ありません。

■ DVD の再生が円滑に行われない

- ・「WinDVD」を正しくインストールしましたか？
「WinDVD」を再インストールしてください。

- ・ 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてからインストールしましたか？
一度アンインストールしてから管理者権限を持ったユーザーとしてログオンし直し、「WinDVD」再インストールしてください。
- ・ Wave 音源の再生、または AVI ファイル等の映像再生をしていませんか？
Wave 音源、または AVI ファイル等の映像と同時再生はできません。

■外部ディスプレイに再生画面が表示されない

- ・ パソコン本体がマルチモニタ機能を使用していないですか？
マルチモニタ機能に設定している場合、再生映像は「プライマリディスプレイ」側にしか表示できません。

■DVDの再生音が小さい

- ・ パソコン本体のボリュームの設定は正しいですか？
DVD ディスクによっては音のレベルが小さく録音されているものがあります。OS の「音量の調整」または「ボリュームコントロール」の設定を調節してください。

バッテリー

■状態表示 LED のバッテリー残量ランプが赤色に早い間隔で点滅している

- ・ バッテリーは正しく取り付けられていますか？
バッテリーが正しく充電できないことを示します。パソコン本体の電源を切ってからバッテリーの取り付けをやり直してください。それでも赤色に点滅している場合はバッテリーが異常です。新しいバッテリーと交換してください（『ハードウェアガイド』（PDF）の「ハードウェア」－「バッテリーパックを交換する」）。

■状態表示 LED のバッテリー充電ランプがオレンジ色に点滅している

- ・ バッテリー運用直後ではありませんか？
バッテリー運用直後の充電などでは、バッテリーの温度が上昇しているため、保護機能が働いてバッテリー充電ランプがオレンジ点滅することがあります。しばらくして、バッテリーの温度が低下し、正常な温度に戻ると、そのときのバッテリー残量を表示します（『ハードウェアガイド』（PDF）の「ハードウェア」－「バッテリーを充電する」）。

■バッテリーが充電されない

- ・ AC アダプタは接続されていますか？
AC アダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。
- ・ バッテリーが熱くなっていませんか？
状態表示LEDのバッテリー充電ランプがオレンジ点滅します。
周囲の温度が高いときや使用中にバッテリーの温度が上昇すると、バッテリーの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。
- ・ パソコン本体が冷えていませんか？
状態表示LEDのバッテリー充電ランプがオレンジ点滅します。
バッテリーの温度が 5℃以下になっていると、バッテリーの保護機能が働いて、充電を止めることがあります。

- ・充電を途中で中断させていませんか？

充電を始めてから、バッテリーの充電が完了するまでの間に本パソコンを使用したり、ACアダプタを取り外したりすると、バッテリーの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合は、本パソコンをしばらくの間バッテリーで稼働させ、バッテリー残量が89%以下になってから充電してください。また、いったん充電を開始したら、バッテリーの充電が完了するまでACアダプタを接続したまま充電を終わらせてください。

ディスプレイ

■画面に何も表示されない

- ・「起動・終了時のトラブル」(●▶ P.67)の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。

■ディスプレイの表示が見にくい

- ・ディスプレイは見やすい角度になっていますか？
ディスプレイの角度を調節してください。
- ・明るさなどを調節しましたか？
「機能」－「液晶ディスプレイの明るさ設定」(●▶ P.8)をご覧ください、明るさを調節してください。

■液晶ディスプレイが閉まらない

- ・間に物がはさまっていませんか？
無理に閉めようとすると液晶ディスプレイに傷をつけることがあります。物がはさまっていないか確認してください。また、クリップなどの金属製品がキーのすき間などに入ると、故障の原因になります。

■表示が乱れる

- ・Windowsの画面が正常に表示されない場合は、ディスプレイドライバを再インストールしてください。
Windowsが起動しないときは、Safeモードで起動してからインストールしてください(●▶ P.64)。
- ・ソフトウェア使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、ソフトウェアを最小化します。
 2. タスクバーに最小化されたソフトウェアのボタンをクリックします。

POINT

次のような場合に表示が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。

- ・ Windows 起動時および画面の切り替え時
- ・ DirectX を使用した一部のソフトウェア使用時
- ・ 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか？
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください(●▶ P.60)。
- ・ 外部ディスプレイに出力していますか？
外部ディスプレイによっては、対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、設定を変更してください(●▶ P.22)。

サウンド

■スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- ・内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。
 - スピーカーの出力は ON になっていますか？
【Fn】+【F3】キーを押して、スピーカーの出力を確認してください。
 - 音量は正しく調節されていますか？
【Fn】+【F8】キー、または【Fn】+【F9】キーを押して、適正な音量にしてください。
- ・音量を設定するウィンドウで、ミュートや音量などを確認してください（●▶「機能」－「音量の設定」（●▶ P.23)）。
- ・音が割れる場合は、音量を小さくしてください。

■マイクからうまく録音ができない

- ・音量は調節されていますか？
音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳細については、「機能」－「音量の設定」（●▶ P.23）をご覧ください。

キーボード

■押したキーと違う文字が入力される

- ・【NumLk】キーや【CapsLock】キーが有効になっていませんか？
状態表示LEDのNum Lk表示やCaps Lock表示が点灯していないか確認してください。
- ・「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？
次の手順で確認してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
 3. 「キーボード」をクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。

ペン／マウス／ポインティングデバイス

■マウスカーソルが動かない

- ・マウスは正しく接続されていますか？
- ・ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？（USB マウスの場合）
マウス内部をクリーニングしてください。
- ・オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？（USB マウス（光学式）の場合）
オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。

■タッチパネルのポインタ位置がずれる

- ・タッチパネルを調整してください（●▶『取扱説明書』）。

■ペン／マウス／ポインティングデバイスが使えないため、Windowsを終了できない

- ・キーボードを使用して Windows を終了してください（●▶ P.68）。

USB

■USB デバイスが使えない

- ・ケーブルは正しく接続されていますか？
ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- ・USB デバイスがルートハブ以外に接続されていませんか？
USB デバイスはルートハブに直接接続してください。
- ・USB デバイ스에 不具合はありませんか？
USB デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。
Windows を再起動して、USB デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイスのご購入元にご連絡ください。

■USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される

- ・デバイスドライバに問題はありませんか？インストールされていますか？
必要なドライバをインストールしてください。
- ・外部から電源を取らない USB デバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？
次の手順で USB コネクタの電力使用状況を確認してください。
 1. 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」をダブルクリックし、「USB ルートハブ」をダブルクリックします。
「USB ルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「電力」タブをクリックし、USB バスの電力使用状況がデバイスマネージャで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。

プリンタ

■プリンタを使用できない

- ・ 次の点を確認してください。
 - プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
 - ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - プリンタの電源は入っていますか？
 - プリンタドライバは正しくインストールされていますか？
プリンタのマニュアルをご覧ください、再インストールしてください。
 - ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
 - ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？ (●▶ P.73)

その他

■使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- ・ 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社のサポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) で公開しています。必要に応じてご覧ください。

6 それでも解決できないときは

お問い合わせ先

弊社でサポートを行うソフトウェア

次のソフトウェアのお問い合わせについては、添付の冊子『サポート&サービスのご案内』「第3章 サポートのご案内」「2. パソコン操作について相談したい」をご覧ください。

- ・ Alps Pointing-device Driver
- ・ FMV 診断
- ・ FMV ユーザー登録
- ・ FM かんたんインストール
- ・ FM かんたんバックアップ
- ・ IndicatorUtility
- ・ MyMedia
- ・ WinDVD
- ・ Plugfree NETWORK
- ・ Roxio DigitalMedia SE
- ・ アップデートナビ
- ・ ハードディスクデータ消去
- ・ マイリカバリ
- ・ 富士通タブレットコントロール
- ・ 省電力ユーティリティ

サポート対象外のソフトウェア

下記ソフトウェアは、各ソフトウェア提供会社様より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

- ・ Adobe Reader
- ・ Real Player

弊社以外でサポートを行うソフトウェアとそのお問い合わせ先

- ・ Norton AntiVirus 2006

株式会社シマンテック

シマンテックテクニカルサポートセンター

本センターをご利用いただくためには、ユーザー登録が必要です。また、ご利用期間は登録日から90日間となります。期間経過後のご利用は、有償サポートをご購入いただくか、またはパッケージ製品へのアップグレードをご検討ください。

URL : <http://www.symantecstore.jp/oem/fujitsu/> (ユーザー登録ホームページ)

電話・FAX : テクニカルサポートセンターの連絡先は、ご登録された電子メールアドレス宛に通知いたします。

電話受付時間 : 10:00 ~ 18:00 (土曜・日曜・祝日・年末年始を除く)

索引

A

Adobe Reader 52, 55
Alps Pointing-device Driver 52, 55

F

FMV 診断 52, 55, 65
FMV ユーザー登録 52, 53
FM かんたんインストール 52, 53
FM かんたんバックアップ 52, 53
Fujitsu Button Utilities 52, 55

I

IndicatorUtility 52, 54

L

LAN 26
LAN 着信によるレジューム 36

M

MyMedia 52, 53

N

Norton AntiVirus 52, 54, 61

P

Plugfree NETWORK 52, 55

Q

QT-PC/U 65

R

RealPlayer 52, 53
Roxio DigitalMedia 55
Roxio DigitalMedia SE 52

S

Safe モード 64

W

Wakeup on LAN 36
Windows 環境調査ツール (FM Advisor) . . 65
WinDVD 52, 55

あ行

アップデートナビ 52, 54
色数 14
エグゼキュート・ディスエーブル・
ビット機能 46

か行

解像度 14
外部ディスプレイの走査周波数 22
仮想メモリ 72
休止状態 31

さ行

指紋センサー 46
省電力 31
省電力ユーティリティ 52
スタンバイ 31
セキュリティ 40
全画面表示と通常表示の切り替え 10

た行

ディスプレイの明るさ設定 8

は行

ハードディスクデータ消去 52, 56
表示装置の切り替え 16
富士通タブレットコントロール 52, 55
ページングファイル 72

ま行

マイリカバリ 52, 54
マルチモニタ機能 19
モデム 28
モデム着信によるレジューム 36

ら行

レジューム 36
ローテーション機能 12

わ行

ワイヤレス LAN 27

FMV-BIBLO LOOX P70R

ソフトウェアガイド
B6FH-8641-01 Z0-00

発 行 日 2006 年 1 月
発行責任 富士通株式会社

〒 105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。